社会

社会性目標と実績

製品責任

創業以来、一貫して「お客様第一」に徹し、CS経営を推進

お客様満足度調査の分析とフィードバック

オーナー様とのきずなが深まるコミュニケーションツール

賃貸住宅「シャーメゾン」入居者の満足度向上

労働慣行

労働安全衛生マネジメントシステム

労働災害発生状況

施工現場での労働安全衛生活動

安全衛生教育研修の実施

社会貢献

社会貢献活動の考え方・指針

住文化向上

- 住まいづくりに関する教室を開催
- 各地で「学びの場」を提供し、展開する教育貢献活動
- オーナー様に呼びかけて「きずなガーデンコンテスト」を実施

次世代育成

- 環境教育プログラム、出張授業の実施
- 若き建築デザイナーの登竜門「建築新人戦」の開催を支援
- 「弁当の日」応援プロジェクトに参画
- 「エコ･ファーストの約束」で示した環境テーマが体験できる公開施設「積水ハウス エコ･ファースト パーク」
- キッズデザイン協議会

環境配慮

- 「企業の森」制度への参加をはじめとする森林保全活動

地域社会への貢献

- 経年美化のまちづくり
- 「ひとえん」づくりによるコミュニティの醸成
- 既存郊外住宅地の持続可能な住環境の実現を目指す取り組み
- 災害時の復旧支援体制
- 「チャイルド・ケモ・ハウス」の運営に協力
- 公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」
- チャリティーフリーマーケットの実施
- 「こどもの日チャリティイベント」への参画
- 社会貢献活動社長表彰

障がい者の自立と社会参加を応援

芸術文化発信の拠点となる「絹谷幸二 天空美術館」

従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

災害義援金

自然災害からの復旧・復興に向けた取り組み

社会性目標と実績

【自己評価の基準について】

○ … 目標を達成　△ … 達成できなかったが目標に近付いた　× … 目標に向けた改善ができなかった

製品責任

お客様満足度の向上

Plan	2017年度目標	オーナー様とのコミュニケーション強化、さらなるお客様満足度の向上
Do	2017年度の活動内容	CS経営に基づくオーナー様訪問強化、「Netオーナーズクラブ」のコンテンツ更新（月2回）、オーナー様向け情報誌「きずな（戸建）」「Maisowner（賃貸）」「gm（マンション）」の定期発行とアンケートの実施・分析・改善
Check	評価	○　お客様アンケートによる満足度調査で満足度 95.6% 「Netオーナーズクラブ」会員数　合計31万8330人（4万9840人増）
Action	2018年度目標	オーナー様とのコミュニケーションを強化、さらなるお客様満足の向上を目指す
	関連する取り組み	お客様満足度調査の分析とフィードバック オーナー様とのきずなが深まるコミュニケーションツール

安全・安心・健康・快適な住まいづくり

Plan	2017年度目標	誰もが使いやすく心地よい「スマートUD」の住まいづくりを推進
Do	2017年度の活動内容	「安全・安心」＋「使いやすさ」＋「心地よさ」の三つの視点から住宅の部材や設計手法の開発に取り組む
Check	評価	○　賞の創設以来11年連続で「キッズデザイン賞」受賞
Action	2018年度目標	誰もが使いやすく心地よい「スマートUD」の住まいづくりを継続して推進
	関連する取り組み	積水ハウスの「ユニバーサルデザイン」 積水ハウスのキッズデザイン

Plan	2017年度目標	制震システム「シーカス」※1搭載率 95% 空気環境配慮仕様「エアキス」※2搭載率 90%
Do	2017年度の活動内容	「シーカス」「エアキス」を積極的に提案
Check	評価	△ 「シーカス」搭載率※1 96% 「エアキス」搭載率※2 88%
Action	2018年度目標	「シーカス」搭載率※1 95% 「エアキス」搭載率※2 90%
	関連する取り組み	CSV戦略③バリューチェーンを通じた顧客価値の最大化 活動1：ビッグデータを生かした最適技術で安全・安心・健康・快適を実現

※1 鉄骨2階建て 戸建住宅での割合

※2 鉄骨戸建住宅での割合

Plan	2017年度目標	体験型学習施設を有効活用し、安全・安心・健康・快適な住まいづくりをサポート
Do	2017年度の活動内容	積極的な来場の呼びかけ 来場者へのプレゼン・説明ツールの改善・改良
Check	評価	○ 年間来場者数 「納得工房」2万9799人 「住ムフムラボ」9万4819人 「エコ・ファースト パーク」3932人
Action	2018年度目標	体験型学習施設のより一層の有効活用と、来場者満足の向上
	関連する取り組み	R&Dの拠点「総合住宅研究所」 参加・体験型施設 「住まいの夢工場」、「住ムフムラボ」 「エコ･ファーストの約束」で示した環境テーマが体験できる公開施設「積水ハウス エコ･ファースト パーク」

Plan	2017年度目標	賃貸住宅入居者様とのコミュニケーションを強化、さらなる入居者満足の向上
Do	2017年度の活動内容	入居者向けサービス「MASTクラブ」の充実等による安定した入居者層の形成
Check	評価	○　一括借上・管理室数 60万1582室、入居率 96.7%
Action	2018年度目標	賃貸住宅入居者様とのコミュニケーションを強化、さらなる入居者満足の向上
	関連する取り組み	賃貸住宅「シャーメゾン」入居者の満足度向上

コミュニティの形成と地域文化の継承

Plan	2017年度目標	地域住民によるコミュニティづくり、地域文化継承をサポート
Do	2017年度の活動内容	「まちなみ参観日」・「ひとえん」イベントの開催地を増やす
Check	評価	○　「まちなみ参観日」（春・秋合計） 戸建 833会場、マンション 17会場、来場組数 1万7517組 「ひとえん」イベント 58会場
Action	2018年度目標	地域住民によるコミュニティづくり、地域文化継承をサポート
	関連する取り組み	「ひとえん」づくりによるコミュニティの醸成

従業員とともに

Plan	2017年度目標	より一層「従業員が幸せを感じ、生き生きと仕事ができる企業集団」となるよう多面的に取り組む
Do	2017年度の活動内容	各種制度の利用と周知を図り、企業理念に基づく活力ある企業風土を推進
Check	評価	○ 男性の育児休業取得人数 597人 女性の育児休業取得後の復職率 100% 有給休暇取得率 39.7% 障がい者雇用率 2.38% 柔軟な勤務制度の活用人数 1017人 介護支援制度利用者 13人 職群転換制度活用 22人 退職者復職登録制度活用 5人
Action	2018年度目標	働き方改革による”わくわくドキドキする職場づくり”
	関連する取り組み	仕事と育児の両立サポート ワーク・ライフ・バランスの推進 看護・介護、休職従業員のための各種支援制度 社内公募制度

Plan	2017年度目標	生き生きと働き続けることができる環境の整備と意識改革による女性活躍のさらなる推進
Do	2017年度の活動内容	「人材サステナビリティ宣言」に基づく重点テーマ施策の強化
Check	評価	○ 4度目の東証・経産省「なでしこ銘柄」選定、グループ女性管理職158人、2.94%
Action	2018年度目標	生き生きと働き続けることができる環境の整備と意識改革による女性活躍のさらなる推進
	関連する取り組み	CSV戦略⑤ダイバーシティの推進と人材育成 活動1：ダイバーシティの推進 女性活躍推進法に基づく「積水ハウスグループ 女性活躍推進行動計画」

Plan	2017年度目標	労働安全衛生の一層の推進
Do	2017年度の活動内容	各事業所の安全衛生委員会の積極活用等
Check	評価	△ 事務部門（単体）休業災害度数率 0.10・業務上疾病度数率 0.07 生産部門（単体）休業災害度数率 0.00・業務上疾病度数率 0.00 生産部門（委託業者）休業災害度数率 0.51・業務上疾病度数率 0.00 施工部門（委託業者のみ）休業災害度数率 1.89・業務上疾病度数率 0.20
Action	2018年度目標	労働安全衛生の一層の推進
	関連する取り組み	労働安全衛生マネジメントシステム 労働災害発生状況 施工現場での労働安全衛生活動 安全衛生教育研修の実施

サプライチェーン

協力工事店・取引先の皆様とともに

Plan	2017年度目標	取引先との健全な関係の継続
Do	2017年度の活動内容	「企業倫理要項」等のルールの徹底 方針説明会の実施 内部統制チェック項目の一つに下請取引に関するチェック項目を設定
Check	評価	○ 当該事業年度において協力工事店や取引先様との間で公正な取引に疑義のあるような問題は発生していない。ならびに、独占禁止法に抵触した事例はない。
Action	2018年度目標	取引先との健全な関係の継続
	関連する取り組み	サプライチェーン・マネジメント お取引先との相互コミュニケーション 内部通報システムと公益通報者の保護 公正な取引

地域貢献・社会貢献

住文化向上・教育支援

Plan	2017年度目標	自社の施設やノウハウを生かして、住文化向上や次世代育成に貢献する
Do	2017年度の活動内容	施設やカリキュラムの見直し・改善
Check	評価	○ 「すまい塾」年間受講者数 こだわり講座 22人（累計890人）　公開講座 311人（累計1万7626人）
Action	2018年度目標	自社の施設やノウハウを生かして、住文化向上や次世代育成に貢献する
	関連する取り組み	若き建築デザイナーの登竜門「建築新人戦」の開催を支援 環境教育プログラム、出張授業の実施 従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」 R&Dの拠点「総合住宅研究所」

地域社会への貢献

Plan	2017年度目標	社会貢献活動の情報発信、共有と内容のさらなる充実
Do	2017年度の活動内容	SELP製品の積極的活用 森林保全活動など生態系保全に向けた活動への参加 メディアや社内誌を通した社内外への発信
Check	評価	○ SELP製品のノベルティ採用数 2万8991個（累計33万個超） 「企業の森」制度への参加をはじめとする森林保全活動
Action	2018年度目標	社会貢献活動の情報発信、共有と内容のさらなる充実
	関連する取り組み	障がい者の自立と社会参加を応援 「企業の森」制度への参加をはじめとする森林保全活動

Plan	2017年度目標	「積水ハウスマッチングプログラム」への従業員の活動理解と参加を促進
Do	2017年度の活動内容	社内ホームページや社内誌などを活用した周知活動、活動報告会の開催
Check	評価	○ 2017年度助成　31団体に4105万6000円（累計・延べ256団体に2億円超） 会員数：4406人
Action	2018年度目標	「積水ハウスマッチングプログラム」への従業員の活動理解と参加を促進
	関連する取り組み	従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

製品責任

創業以来、一貫して「お客様第一」に徹し、CS経営を推進

積水ハウスでは「人間愛」を根本哲学とする企業理念のもと「最高の品質と技術」を目指し、「人間性豊かな住まいと環境の創造」に取り組んでいます。創業以来「お客様第一」に徹した経営を貫き、すべてのお客様に生涯にわたって心から満足していただけるよう、「真のCS」の実現を目指して日々活動しています。

当社グループは、高い技術力・生産力・施工力により、営業・設計・生産・施工・アフターサービスなど、住まいづくりの全プロセスにおいて最高の品質、すなわち、お客様の信頼と満足を得ることのできる商品・サービスの提供を目指し、日々活動しています。

家族それぞれの身体機能の変化に合わせ、安全・安心で家庭内事故がなく、快適で暮らしやすい住まいを提供することは、住宅メーカーが果たすべき当然の製品責任であると考えています。

当社グループの「スマートユニバーサルデザイン」では、この基本的な考え方に加え、何気なく触れた時の感覚や、日常のちょっとした操作性、ふと目にした時の意匠の美しさなど、「からだやこころの素直な感覚＝心地よさ」を大切にしたデザインの工夫を提案しています。

「安全・安心」＋「使いやすさ」＋「心地よさ」の三つの視点から、住宅の部材や設計手法の開発に取り組み、誰にとっても快適で、いつまでも愛着を持って暮らし続けることのできる住まいづくりを追求しています。

また、全社的な活動徹底のためにCS推進部を設置。お客様満足度向上のため、お客様の相談窓口を務めるとともに、お客様の暮らしをサポートする「Netオーナーズクラブ」の運営や、アフターサービスを担当する全国のカスタマーズセンターのサポートを行っています。

加えて、カスタマーズセンターの定休日にお客様からの電話を受ける「休日受付センター」をCS推進部内に設け、緊急を要する用件については即日対応・手配する体制を整えています。

安全配慮引手
（第10回キッズデザイン賞受賞）

フルフラットサッシ、フルフラットバルコニー
（第5回キッズデザイン賞受賞）

【関連項目】

> カスタマーズセンター

製品責任

お客様満足度調査の分析とフィードバック

積水ハウスでは、「お客様アンケート」を実施しています。集計・分析したアンケート調査結果を関係部署にフィードバックして、日常の業務改善はもちろん、サービス体制の充実や新たな部材や商品の開発、設計・施工の改善などに役立てています。

さらなる品質向上とサービス充実のために

当社は、提供した住宅商品・サービスについて、オーナー様に評価していただく「お客様アンケート」を実施しています。戸建住宅のオーナー様には、着工前、入居時、入居後など住まいづくりのプロセスに沿って、アンケートを実施しています。「着工前お伺い書」は、納得いただいていない事柄を明らかにすることにより、不安を解消し、着工後の業務をよりスムーズに行うことが目的です。「入居時アンケート」では、打ち合わせから施工までの各業務プロセスにおける満足度などを確認しています。さらに、「入居後1年アンケート」では、設計提案内容や使い勝手の満足度、アフターサービスの評価などを確認しています。また、賃貸住宅「シャーメゾン」のオーナー様には、「引き渡し後2年アンケート」を実施しています。

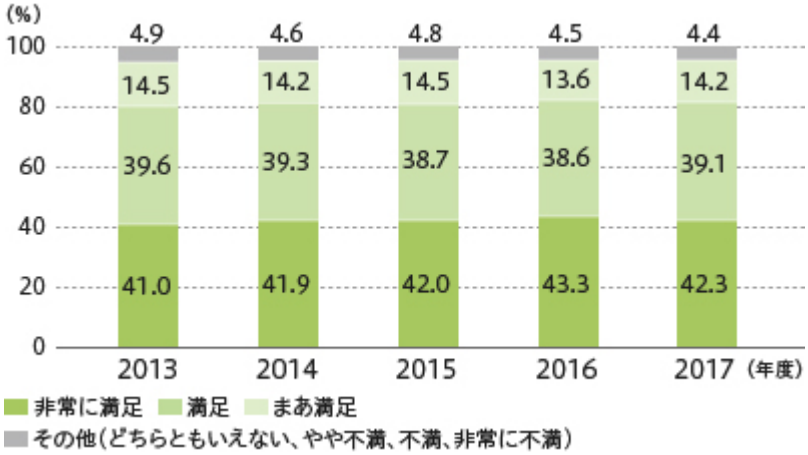
「入居時アンケート」「入居後1年アンケート」については、2012年8月度調査分から、当社オーナー様向け会員制サイト「Netオーナーズクラブ」からも回答ができるようになり、利便性が向上しました。

アンケートでは、総合満足度、建物の出来栄え、推薦意向、各部位の満足度、創エネ機器の満足度、当社各担当者に対する満足度などを伺います。お客様一人ひとりが、住まいの品質および各担当者から提供されたサービスの内容に満足されているかを確認し、今後の品質向上とサービス充実に努めるとともに、不満や不具合がある場合は迅速に対応して解消・改善します。また、自由記述欄を多く設け、こだわりや要望、実際に生活してみての感想など、お客様の生の声を知ることができるよう配慮し、お客様の多様な意見を、お客様の視点に立った住まいづくりとして生かせるよう取り組んでいます。

集計・分析したアンケート調査結果を関係部署にフィードバックして、日常の業務改善はもちろん、サービス体制の充実や新たな部材や商品の開発、設計・施工の改善などに役立てています。

提供した商品・サービスに対して、満足いただけたかを「お客様アンケート」でチェック

お客様アンケート 満足度調査（7段階評価）



※ グラフの横軸（年度）は、調査年度です。

過去5年間の「非常に満足」の割合は、全体の4割超で推移しています。お客様アンケートの結果を踏まえたこれまでの改善の取り組みが奏功しているものと考えています。「非常に満足」と回答をいただいたお客様は、営業担当はもちろん、設計担当、建築担当やアフターサービス担当の総合力に大きく満足されていることがうかがわれます。また、ご不満との回答をいただいたお客様には職責者がお会いして、ご不満の因子を取り除くべく対応しています。今後もアンケート結果やご記入いただいた貴重なコメントを真摯に受け止め、サービス体制の充実や品質向上に向けて取り組んでいきます。

なお、製品やサービスのライフサイクルにおいて発生した安全衛生に関する規制および自主的規範の違反は本年度もありません。

製品責任

オーナー様とのきずなが深まるコミュニケーションツール

積水ハウスは、新築されたお住まいの引き渡し後も会員制ホームページや定期発行の情報誌などを通じて、オーナー様への情報提供とコミュニケーション活動を継続し、オーナー様とのきずなを深めています。

「きずな」をはじめとするオーナー様向け情報誌

戸建住宅のオーナー様に「いつもいまが快適」な暮らしをサポートする情報誌「きずな」を年2回、住まいづくりを通して結ばれたきずなを大切に、オーナー様の住まいと幸せな暮らしを生涯にわたって見守り続けたいという思いを込めて発行しています。1975年の創刊から、2017年末までに136号を発行しました。「きずな」では、長くお住まいいただくために必要な情報や、毎日の暮らしに役立つ情報を、実例を交えながら具体的に紹介しています。また、オーナー様同士のコミュニケーションの場としても好評をいただいています。

2017年9月に発行した136号の特集は、「わが家を上手に住みこなす」。家をライフスタイルに合わせてメンテナンスや、リフォームをしながら、大切に住み継がれているオーナー様をご紹介したり、開発担当者が快適に住みこなすためのポイント等をご提案しています。オーナー様からのお便りや川柳などを掲載するコーナーも人気を博しています。

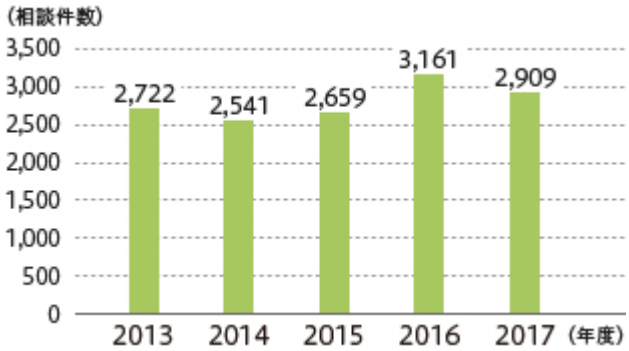
また、「シャーメゾン」（当社の低・中層賃貸住宅商品の総称）のオーナー様には、年に2回、情報誌「Maisowner(メゾナー)」を配布しています。最新の賃貸住宅の動向や実例紹介のほか、税・法律の知識、リフォーム提案など、賃貸住宅経営や資産運用に役立つ情報を掲載しています。分譲マンション「グランドメゾン」のオーナー様については、年3回、情報誌「gm（ジーエム）」を配布。全国の物件紹介や快適な暮らしの提案、生活リテラシーなど幅広い情報を提供しています。

快適生活サポートサイト「Netオーナーズクラブ」

当社のオーナー様専用の会員制ホームページ「Netオーナーズクラブ」（2018年1月末の会員数31万8330人）では、毎日の快適な暮らしと住まいをサポートする、さまざまな情報を提供しています。住まいのメンテナンスやリフォーム、インテリアやガーデニングなどに関する情報を掲載。お役立ちグッズ・アイテムも紹介しています。当社ならではのお手入れ情報やアドバイスを部位別に詳しく紹介する「メンテナンス」コーナーでは、オーナー様ご自身で行うことが可能な修理・調整方法を動画で見ることができます。スマートフォンの画面を見ながらお手入れや修理ができるようにモバイルサイトを準備。パソコン画面上からもスマートフォンでQRコードを読み込めば簡単にアクセスすることができます。

パソコンやスマートフォンから写真を添付してメンテナンス依頼ができます。また、お手入れ、リフォーム、インテリア、ガーデニング、火災保険などの住まいに関する疑問や悩みを気軽に相談できる「相談室」も設けていて、各部門の専門スタッフが直接お答えします。

Netオーナーズクラブ「相談室」経由のカスタマーズセンター相談件数



これまでの取り組み

1971年	お客様向け情報誌「住居瑠（スマイル）」創刊 （現在は廃刊）
1975年	戸建住宅のオーナー様向け情報誌「きずな」創刊
1986年	新規・継続のお客様向け情報誌「こんにちは」創刊 （2012年3月～「sumai smile」に名称変更）
2001年	「Netオーナーズクラブ きずな」開設
2002年	分譲マンションのオーナー様向け情報誌「gm（ジーエム）」創刊
2006年	賃貸住宅のオーナー様向け情報誌「Maisowner（メゾナー）」創刊
2009年	「きずなガーデンコンテスト」開始
2011年	「節電アクションコンテスト」開催（2011年、2012年の2年間）
2013年	対話型HEMS「あなたを楽しませ隊」運用開始
2014年	「Netオーナーズクラブ」スマートフォンサイト開設
2016年	「Netオーナーズクラブ・安心メール」開始
2017年	「Netオーナーズクラブ・メンテナンス依頼」受付開始

製品責任

賃貸住宅「シャーメゾン」入居者の満足度向上

CS経営を推進する積水ハウスグループは、入居者向けサービス「MASTクラブ」を運営し、賃貸住宅「シャーメゾン」入居者の満足度向上を図り、安定した入居者層の形成を目指しています。

入居者向けサービス「MASTクラブ」

積水ハウスは賃貸事業を行うオーナーの皆様への、物件の企画・設計・建築のみならず、積和不動産グループによる賃貸住宅の一括借り上げや管理業務の受託により、経営の安定と資産価値の維持向上に努めています。

CS経営を推進する当社グループは、入居者向けサービス「MASTクラブ」を運営し、賃貸住宅「シャーメゾン」入居者の満足度向上を図り、安定した入居者層の形成を目指しています。「MASTクラブ」に入会すると、積和不動産グループが管理運営する賃貸住宅に住んでいるだけで、毎月の家賃1000円につき1ポイントが付与され、たまったポイントは、積和不動産グループでの賃貸住宅への住み替えや不動産の購入・売却、当社での注文住宅建築の際などにご利用いただけます。また、引っ越しや旅行、レンタカーなどの割引サービスが適用されるとともに、賃貸住宅入居者の暮らしと家財を守る「積和入居者保険」や連帯保証人不要で賃貸借契約が結べる「らくらくパートナー」などのメニューも用意しています。

【関連項目】

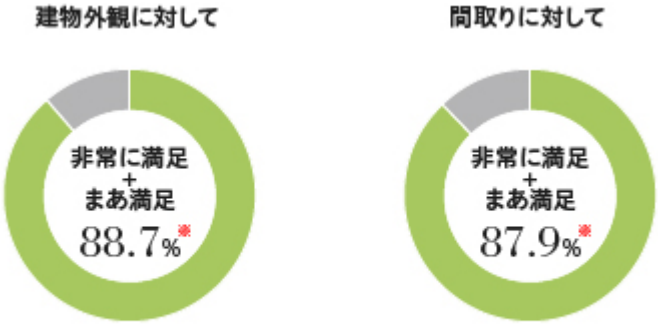
> 「MASTクラブ」 ホームページ

入居者アンケートの実施

当社は、シングルやカップル、ファミリーといった入居者ごとのニーズや地域特性などを徹底分析したライフスタイルプランを提案しています。その結果「シャーメゾン」を退去される際に実施しているアンケートでは、建物外観・間取りともに9割近くの方に「満足」と回答していただいています。また、入居者の支持が、高い入居率の維持にもつながっています。

なお、アンケート調査結果はホームページで公開するとともに、詳細に分析し、新商品の開発や生活ソフトの提案、サービス内容の向上などに活用しています。

入居者の建物評価



※退去時アンケート（2016年 積水ハウス調べ）

【関連項目】

- 「シャーメゾン入居者満足度」調査結果
- 「シャーメゾン入居率」

労働慣行

労働安全衛生マネジメントシステム

厚生労働省が推奨している「労働安全衛生マネジメントシステム」に、施工現場の特性を加味して独自に構築した「積水ハウス危険ゼロシステム」を組み入れ、危険要因を減らす安全衛生管理活動を展開しています。

施工関係者が安全で健康に働ける環境整備を目指して

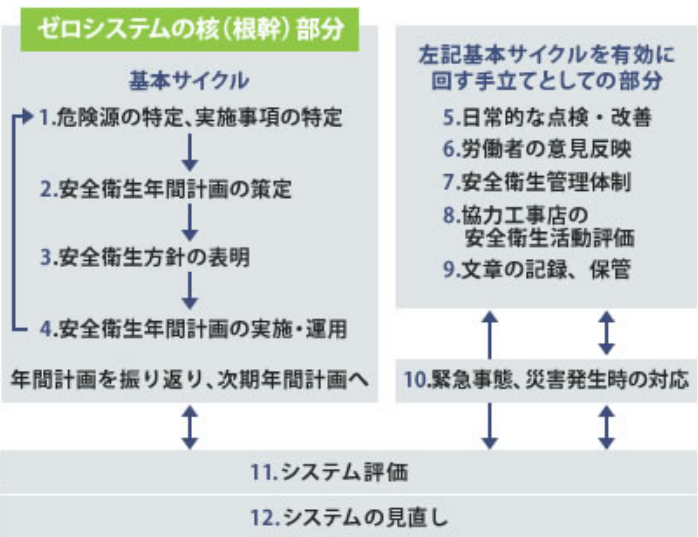
住宅の施工段階では、現場で多くの関係者が業務にかかわります。お客様にご満足いただける高い施工精度を保つためにも、施工関係者が安全で心身ともに健康に働くことができる環境の整備が重要です。積水ハウスでは、従業員のみならず施工協力会社の事業主や施工技能者等も含め、グループ一体となった労働安全衛生マネジメントシステムを整備しています。

独自に構築した「危険ゼロシステム」の運用

当社や協力会社の施工技能者が安心して働ける施工現場を目指し、全社および事業所ごとの災害や事故の傾向を分析した上で、「施工安全衛生年間計画」に取り組むべき項目や対策を記し、災害の低減化を図っています。また、今般、労働安全衛生法の改正により、建設業で塗料等を扱う場合でも、そのリスクを認識し、取扱方法を確認していくリスクアセスメントが必要となりました。化学物質リスクアセスメントとして、現場ごとに、誰もが分かりやすい化学製品の絵表示一覧表や、リスクや安全な取扱方法等の情報を記載したSDS（安全データシート）を取り出せるよう、配信システム化を行い、現場でのリスク要因を減らしています。

今後とも継続して具体的で実効性のある災害防止対策や安全衛生教育研修の実施に努め、関係者が一体となって労働安全衛生水準の一層の向上を目指します。

■ 危険ゼロシステムの概要



何か災害・事故が発生した場合、速やかに発生した事業所から人事部に連絡があり、人事部から取締役会に報告されます。また、施工現場で施工技能者に関する災害・事故が発生した場合は、速やかに発生した事業所から施工部に連絡があり、施工部から取締役会に報告されます。

労働慣行

労働災害発生状況

2017年度の部門別の休業災害度数率・業務上疾病度数率は、各種取り組みの結果、2016年度と比較しておおむね下がりました。発生した労働災害・通勤災害については、労働安全衛生法等により設置が義務付けられている安全衛生委員会で要因分析を行い、安全衛生意識の向上、不安全行動の防止、災害や疾病につながる長時間労働の抑止等に取り組んでいます。また、同法により、労働組合がない場合は労働者の過半数を代表する従業員代表を指名する必要があり、当該従業員代表を指名しています。

休業災害度数率/業務上疾病度数率

（休業1日以上を集計）

部門		休業災害度数率		業務上疾病度数率	
		2016年度	2017年度	2016年度	2017年度
事務部門（従業員※1）		0.16	0.10	0.00	0.07
生産部門	従業員※1	0.40	0.00	0.00	0.00
	委託業者※2	1.22	0.51	0.00	0.00
施工部門（委託業者のみ）		2.57	1.89	0.34	0.20

※1 積水ハウス単体

※2 2016年度は生産 ・出荷業務 ・資源循環に携わる委託業者従業員のみを集計していたが、 より安全衛生の管理実態に沿った集計範囲とするために、2017年度より事務職を含め、 業種を問わないこととした。 2016年度と同様の集計範囲により算定を行った場合の2017年度の休業災害度数率 は0.60、業務上疾病度数率は0.00です。

休業災害度数率：休業（1日以上）労働災害件数/延べ実労働時間×1,000,000
業務上疾病度数率：休業（1日以上）業務上疾病件数/延べ実労働時間×1,000,000

労働慣行

施工現場での労働安全衛生活動

積水ハウスグループでは、施工従事者が安全で健康に働くことができるよう「全社施工安全衛生年間計画」を作成し、法令遵守はもとより、当社施工現場のリスクに併せ自主的な取り組みや安全教育を、PDCAサイクルに定め、継続的に実施しています。

2017年度は「重大な災害を起こさない」「災害増加に歯止めをかける」を重点対策としました

すべての施工従事者の労働安全衛生の確保は、当社グループの社会的責任であり、重点的に取り組むべき項目の一つと考えています。当社グループでは施工従事者が安全に安心して働くことができるよう、2017年度の「全社施工安全衛生年間計画」で「重大な災害を起こさない」「災害増加に歯止めをかける」を重点対策としました。結果、2017年度は労働災害発生件数を減少させることができました。

2017年度 災害発生状況

- 施工現場での労働災害発生件数は前年度比2割強の減となり、墜転落災害も減少しました。ただし、脚立や作業台、ハシゴ等の昇降用具からの墜転落が4割以上を占め、「身を乗り出す」「整理整頓しない」「短いハシゴを使用する」等のヒューマンエラーによるものが多く、一方的な指示により不安全行動を是正するだけでなく、作業者の自発的行動を促す的確な対応が必要であると認識し、取り組んでいきます。
- 外部足場は適正な足場設置が進み、足場使用者にも「足場組立等特別教育」を実施し、モノ・ヒト両面からの対応で減少しました。
- 重機の横転等は作業者だけでなく、近隣をも脅かします。計画段階での重機の選定、定格荷重を守る等、モノ・ヒト両面から啓発しています。
- 夏場の建設現場では熱中症の発生リスクが高まります。勉強会や塩飴等の対策だけでなく、2017年から屋外作業者に空調服の着用を推奨し、熱中症が3割減少しました。「空調服は涼しい」と評判もよく作業効率も上がるため、来期も推進していきます。
- 建物解体等、建物の仕上げに使用された石綿含有建築用仕上塗材の飛散防止対策は、関係省庁の基準に沿って説明会を開催し対応しました。

2017年夏期労働災害防止特別計画ポスターおよび空調服

2018年度も「重大な災害を起こさない」および「災害減少傾向」を継続します

労働災害増加に歯止めがかかった昨年を受けて、2018年度「全社施工安全衛生年間計画」では、各営業本部、各事業所にて、不安全行動の徹底排除、点検・作業手順・整理整頓、同種災害の防止の三つの観点から、災害防止対策を推進します。

2018年スローガン

「点検」「手順」が作業の基本　しない させない 不安全

2018年度　施工安全衛生年間計画の骨子

- 主たる実施項目（重機災害・重機事故防止、墜転落災害防止、熱中症予防）は、不安全行動および不安全状態の排除を念頭におき、各事業所で独自の重点実施対策を決めて実践する。
- 中層住宅の建物外周部の手すりを標準化し、墜転落災害を防止する。
- 熱中症予防の空調服は、2018年度もさらに推進する。
- 同種災害（同じ型、同じ起因物の災害）の防止のため、各事業所で以前に発生した災害の再発防止対策を周知徹底し、実践、定着を見届け、同種災害を阻止していく。

2018年度スローガンポスター

労働慣行

安全衛生教育研修の実施

工事関係者に対して、災害防止対策や安全衛生教育研修を実施。2017年度の「職長・安全衛生責任者教育」や「足場の組立て等特別教育」では、法定の内容に積水ハウスの傾向や実施対策を加味して実施しました。「安全衛生大会」等と合わせ、延べ5万5401人が受講しました。

当社は「施工安全衛生年間計画」をもとに、当社グループの従業員だけでなく、施工協力会社の施工技能者など工事関係者に対して、災害防止対策や安全衛生教育研修を実施しています。

グループ・協力会社含め、延べ5万5401人が安全衛生教育研修を受講

当社と協力会社が一体となって、主体的、創造的に安全衛生教育研修を実施し、労働環境改善、労働災害発生防止に取り組んでいます。2017年度は延べ5万5401人が安全衛生教育研修を受講しました。

- 外部足場の適正設置と相まって、足場を使用する作業者を対象に法定の「足場の組立て等特別教育」を2016年以降実施しており、足場転落災害の減少につながっています。
- 2006年から法定の「安全管理者選任時研修」を毎年、定期的に実施しています。労働安全衛生法に定める安全管理者として必要な実務知識を習得するため、新任・次期安全管理者を対象に実施しています。
- 毎年、協力会社の事業主、施工技能者を対象に「安全衛生推進大会」を実施し、年間計画に掲げる実施事項を公表し、心に残るよう創意工夫を重ね実施しています。

2017年度　安全衛生教育　実績

安全衛生教育　名称	2017年度実績	2016年度実績
総括安全衛生管理者研修	212	197
安全管理者選任時研修	112	60
現場監督研修	224	233
事業主研修	4,253	3,513
職長・安全衛生責任者教育	1,501	2,258
職長能力向上研修（安全衛生責任者編）	1,722	4,710
足場の組立て等特別教育	2,640	3,802
職種別研修	3,233	2,263
安全衛生推進大会	31,741	31,252
その他研修	9,763	8,954
受講者数　総計	55,401	57,242

社会貢献

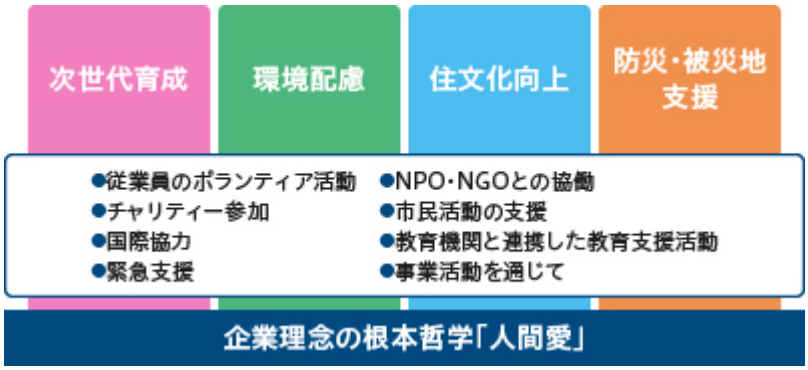
社会貢献活動の考え方・指針

本業を通じた活動はもちろん、「従業員のボランティア活動、チャリティー参加」「NPO・NGOとの協働、活動支援」「教育機関と連携した教育支援活動」などで、一人ひとりの自発的活動が可能な仕組みづくりや、地域に根差した活動を続けています。

「次世代育成」「環境配慮」「住文化向上」「防災・被災地支援」を柱に、自発的活動を促す仕組みをつくり、活動を推進しています

人々の暮らしと地域社会にかかわる事業を営む積水ハウスは、地域と社会の一員として、さまざまな社会貢献活動を進めています。企業理念の根本哲学「人間愛」を活動理念に掲げ、「次世代育成」「環境配慮」「住文化向上」「防災・被災地支援」を柱に、本業を通じた活動はもちろん、「従業員のボランティア活動、チャリティー参加」「NPO・NGOとの協働、活動支援」「教育機関と連携した教育支援活動」などで、一人ひとりの自発的活動が可能な仕組みをつくり、地域に根差した活動を続けています。

社会貢献活動の考え方



【関連項目】

- 各地で「学びの場」を提供し、展開する教育貢献活動
- 環境教育プログラム、出張授業の実施
- 「弁当の日」応援プロジェクトに参画
- 「エコ・ファーストの約束」で示した環境テーマが体験できる公開施設「積水ハウス エコ・ファースト パーク」
- 障がい者の自立と社会参加を応援
- 「チャイルド・ケモ・ハウス」の運営に協力
- 従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」
- 災害義援金
- 社会貢献活動社長表彰
- 芸術文化発信の拠点となる「絹谷幸二 天空美術館」

社会貢献 | 住文化向上

住まいづくりに関する教室を開催

積水ハウスでは、住まいと暮らしに関心のある方々を対象に「すまい塾」を開設し、「こだわり講座」と「公開講座」へ参加いただいています。また、NPO「西山夘三記念 すまい・まちづくり文庫」に、総合住宅研究所の一画を提供し、活動を継続支援しています。

体験や実例見学ができる「すまい塾」を開催

「こだわり講座」の車いす体験学習

当社では、住まいと暮らしに関心のある方々を対象に、「すまい塾」を開設しています。

「すまい塾」は1992年、総合住宅研究所にある「納得工房」でスタートしました。納得工房は住まいに関するあらゆる体験を通じて「理想の住まい」を発見できる施設。自分にふさわしい住まいのイメージを、「知る」「分かる」「納得する」というプロセスを通じて組み立てていくことができます。「すまい塾」には「こだわり講座」と「公開講座」の二つがあり、どなたでも受講していただくことができます。

「こだわり講座」では、2〜3カ月間同じ参加者が継続的に講座を受講することで、体験学習や実例見学を通じて住まいに関する基礎知識を幅広く身につけるとともに、家族の暮らし方や夢を整理し、こだわりの住まいづくりを見つけていただくことを目的としています。講師は各分野の専門家が担当しています。

「公開講座」は、地域のつながりの場を強めることを目指し開講している市民講座。住文化向上の一環として住まいと暮らしにかかわりのある多彩なテーマを取り上げ、「その道のプロ」である講師を社内外から招き、講演形式で実施しています。また、過去の講義録はホームページからご覧いただくこともできます。

2018年1月までに、「こだわり講座」には880人、「公開講座」には1万7626人の方が参加しています。

【関連項目】

- 「すまい塾」 ホームページ （受講をお申し込みいただくことができます）
- 「すまい塾 こだわり講座」 ホームページ
- 「すまい塾 公開講座」 ホームページ
- 「すまい塾 過去の公開講座・誌上公開講座」 ホームページ （講義録）をご覧いただくことができます

西山夘三記念 すまい・まちづくり文庫

積水ハウス総合住宅研究所内に設置
「西山夘三記念 すまい・まちづくり文庫」

建築学者で日本の住宅学を切り拓いた京都大学名誉教授、故西山 夘三氏が、生涯にわたって収集・創作した研究資料約10万点を整理・保管するNPO法人「西山夘三記念 すまい・まちづくり文庫」（京都府木津川市6丁目6-4、積水ハウス総合住宅研究所内、以下「西山文庫」）。多くの優れた研究者の貴重な資料も、その引退や死去によって散逸、消滅することが多い中で、日本でも稀有な事例であるため、当社は総合住宅研究所の一画を提供し、西山文庫設立当初から活動を支援しています。2017年11月に西山文庫はオープンから20周年を迎えました。

西山氏は学者としての多くの論文、著書、学術資料だけでなく、自らの足で全国津々浦々、あらゆる階層の人々の住まいと暮らしを取材して、膨大な資料を収集し、自筆のスケッチや写真も残してこられました。その多くは今となっては入手することができない一級資料や原資料となっており、海外を含むさまざまな人々に活用されています。また、住宅･まちづくり関連の学位論文を幅広く収集しています(2013年度までに刊行された学位論文418冊)。

こうした社会的に貴重な文化的財産である西山氏による研究・創作資料を後世に残し、その精神を受け継ぎ次代の研究者などに提供し育てるということが「西山文庫」の使命であり、毎年さまざまな成果を上げています。その他、西山文庫では次のような活動をしています。

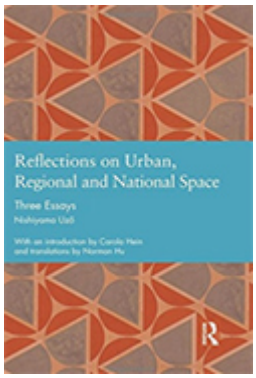
■ 文庫資料を活用した出版活動

文庫が保管・管理している資料を広く社会で活用してもらうために、文庫がかかわって編集・発行している出版物としては下記のものがあります。それらは、西山氏の遺稿、西山氏の多面的な業績の学術的解析・評価、所蔵資料の復刻、西山氏が記録した写真資料、などです。最近では、2015年度発行の「軍艦島の生活＜1952／1970＞住宅学者西山夘三の端島住宅調査レポート」創元社は、世界遺産指定を期に多くの軍艦島本が出る中でも、特に好評を得ています。

- 安治川物語－鉄工職人夘之助と明治の大阪：西山 夘三著、日本経済評論社、1997年
- 西山夘三とその時代－西山文庫資料解題：非市販本、2000年
- 住宅営団：戦時・戦後復興期住宅政策資料第1巻～第6巻：日本経済評論社、2000－2001年
- 幻の住宅営団・戦時･戦後復興期住宅政策資料目録・解題集：日本経済評論社、2001年
- 西山夘三の住宅･都市論：日本経済評論社、2007年
- 昭和の日本のすまい－西山夘三写真アーカイブスから：創元社、2007年。2017年重版。
- これからのすまい－住様式の話（復刻版）：相模書房、2011年
- 軍艦島の生活＜1952／1970＞住宅学者西山夘三の端島住宅調査レポート：創元社、2015年

また、2017年秋のフォーラムで講演いただいたカローラ・ハイン教授(オランダ・デルフト工科大学)が、西山氏の著作の英訳本を出版されました。

：Reflection on Urban. Regional, and National Space: Three Essays, Uzo Nishiyama, Routledge, 2017.11



- **所蔵資料の公開・提供**

大学や研究所、市民などさまざまな分野の方、また海外からも所蔵資料の閲覧・提供、調査研究資料としての活用などの依頼があり、幅広く提供しています。2016年度には、「西山夘三がみた戦後の炭鉱－日本を代表する住宅学者による炭鉱と「住まい方」の記録－」(NPO法人炭鉱(ヤマ))の記憶推進事業団主催、岩見沢市)の展示と講演会開催に協力しました。読売新聞(2016年11月17日夕刊)に掲載された「ユメと熱情のころ　20世紀File.063　食寝分離論」の取材・資料提供に協力しました。
2017年度には、西山氏がほぼ毎日つけていた約400冊の日記・日録を読み解く調査研究が、大学研究者と協力して始まりました。文庫所蔵資料を中心として、LIXILギャラリー(大阪、東京)が、展示会「超絶記録！西山夘三のすまい採集帖」を大阪(2017年6～8月)、東京(同9～11月)で開催しました。1万人を超える入場者があり、読売新聞、朝日新聞など多くのマスコミにも取り上げられ、大きな反響を呼びました。また、同ギャラリーが発行した『超絶記録！西山夘三のすまい採集帖』も好評です。なお、所蔵資料を検索できるデータベースをホームページ上に設けています。

- **ニュースレターの発行**

会員と文庫活動を結ぶため毎年3回、定期的にニュースレターを発行しています。

- **夏の学校の開催**

毎年夏に開催しています。全国の大学生・院生を対象としたフィールドワーク、ワークショップ等によるサマースクールです。2016年度は中国・桂林市で、桂林理工大学と名城大学(名古屋市)の協力で開催しました。世界遺産でもある桂林の自然景観を楽しむだけではなく、1000年以上続く歴史的集落の保存修景やニュータウン開発などを見学し、桂林理工大学の学生とのワークショップも行いました。

■ **人と住まいと社会を考える研究部会の開催**

積水ハウス総合住宅研究所と西山文庫のメンバーによる共同研究会を2004年度から開催してきました。これまでは、「人口減少時代の諸相」、「21世紀における居住者のライフスタイル動向と住宅・住宅地の行方」、「変わる家族・変わらぬ家族／変わる住まい・変わらぬ住まい」、「人口減少時代を豊かにする住まいとまちの新しいマネジメント研究」といったテーマで研究を進めてきました。2016年度からは、これまでの12年間の活動蓄積を踏まえ、研究活動の諸成果をさらに社会に還元していくこととしました。そこで、積水ハウス・西山文庫メンバーによる定期的な研究部会活動を継続するとともに研究会活動と連動して、若手研究者による出版助成事業を始めました。具体的には、西山氏の目指した「人」と「住まい」の調和を謳った「人と住まい文庫」シリーズとして発行を行っています。2017年には下記の2冊を西山文庫が発行元となり、刊行しました。

関川華『パリのガルディアンものがたりーフランス首都圏の共同住宅マネジメント』
江國智洋・三浦史郎『大家と居住者の共生ものがたり』。

市民参加型フォーラム「すまい・まちづくりフォーラム関西21」に協力

2002年から開催している一般公開の「すまい・まちづくりフォーラム関西21」への協賛も「西山文庫」への支援の一つです。2017年度までに39回、本社のある梅田スカイビルや総合住宅研究所などで開催しています。「すまい・まちづくりフォーラム関西21」の開催趣旨は住環境にかかわる今日的な話題や歴史・文化的意味などについて検証し、21世紀の住まい・まちへ持続的発展につながる多彩な情報を発信して住文化の発展に貢献することです。

安全・安心なまちづくり、まちの再生、持続可能なまちづくりの実現などをテーマに、市民参加型のフォーラムは、毎回その分野のトップランナー諸氏による講演ということもあって、講演後の意見交流では講師と参加者の間で活発な討論となり、住まい・まちづくり文化の向上に一石を投じてきました。講演者にとっても西山文庫のフォーラムで話すことは知的刺激に富んだ機会と評価されています。

2017年度には、春と秋にフォーラムを開催しました。

◆春のフォーラム：「未来へ手渡す　HOUSING POLICY」
―大阪の住宅・まちづくり政策史から

講師：　北山　啓三氏（元大阪市副市長）
主催：　NPO法人　西山夘三記念すまい・まちづくり文庫
協賛：　積水ハウス株式会社、積水ハウス梅田オペレーション株式会社
会場：　梅田スカイビル・タワーウエスト22階
開催日：　2017年6月14日

講師：北山　啓三氏

講演の様子

◆秋のフォーラム：「西山夘三の構想計画論を語る」

「国土・都市の未来像を描く意味」
講師：　カローラ・ハイン氏（オランダ・デルフト工科大学建築学部教授）
コメンテータ：　広原盛明（京都府立大学名誉教授）、海道清信（名城大学教授）
コーディネーター：中林　浩（神戸松蔭女学院大学教授）
共同主催：　NPO西山夘三記念すまい・まちづくり文庫、京都自治体問題研究所
会場：　コープイン京都
開催日：　2017年11月25日

講演の様子

講師：カローラ・ハイン氏

コメンテータ：広原盛明氏

社会貢献 | 住文化向上

各地で「学びの場」を提供し、展開する教育貢献活動

「住まいづくり」や「庭づくり」という積水ハウスの本業を生かし、小学生から大学生まで幅広い層の教育機関と連携して、自然体験学習をはじめとする環境にかかわる学習や、設計インテリアに関係する講義や実習の受け入れなど、さまざまな“学びの場”を提供しています。

総合住宅研究所での教育貢献活動

当社総合住宅研究所（京都府木津川市）内にある「納得工房」は、人間性豊かな住まいと住環境をつくるため、生活者と共に体験・検証する「生活体験学習基地」として1990年に開設し、来館者の累計は91万人を超えました。その半数以上は、住まいづくりを体験的に学ぶために来館される方々ですが、五感をフルに使って学べる「納得工房」の大きな特長を生かして、さまざまな教育体験の場としても貢献しています。

教育体験を受け入れる総合住宅研究所では、職場体験や総合学習、あるいは専門知識の習得など教育機関のさまざまな要望に応えるプログラムを用意しています。小学生から大学生まで幅広い層を対象とし、建築だけではなく生活や福祉関連の学習施設としても利活用されています。

学習プログラムの一つ「住まい体験学習」は、建築・生活科学・デザイン系の大学生を対象とし、学校種別による推奨コースを設定したもので、納得工房スタッフが講師を務めています。近年、特に受講者の関心が高いのが、生涯住宅ゾーンの「GARO※体験」です。拘束器具や車いすなどを使用して、障がいや老化などの身体状態を疑似体験できるため、福祉や医療を学ぶ学生が増加し、研究や調査にも有効に活用いただいています。

※ GARO：「G：ガリバー…寸法変化」「A：（不思議の国の）アリス… 環境変化」「RO：ロボット…身体拘束」を組み合わせた言葉。「我老（がろう）＝我れ老いる」の意味も兼ねています。一般老化、妊婦、リウマチなどの状態を、拘束器具を使って体験（GARO体験）することで、健康なときには感じられない住まいの問題点を実感できます。

GARO体験の様子

建物の構造についても学びます

体験教育の機会を提供する「住まいの夢工場」

地震や火事などの疑似体験を通して、納得のいく住まいづくりを考えていただける体験型施設「住まいの夢工場」を全国5カ所に設置し、学生の体験学習を受け入れています。

「住まいの夢工場」では、防災・防犯など、住まいの安全と安心、ユニバーサルデザイン、快適な暮らしと環境、エネルギーなどのテーマを掲げ、楽しみながら体験学習ができるよう、さまざまな工夫をしています。小・中学生をはじめ、学生たちが「住生活」について学ぶ体験学習の場としても活用されています。そして、当社が提供する体験学習プログラムの一つに、震度7クラスの揺れを再現する地震体験があります。この体験を子どもたちが家族に話すことで、各家庭の防災意識が向上するなどの波及効果もあります。

「住まいの夢工場」での体験が、将来的に災害に強い住まいやまちづくりにつながることを願い、今後も多くの学生たちの体験学習の場として活用していただきたいと考えています。

1	東北 住まいの夢工場	宮城県加美郡色麻町大原8番地
2	関東 住まいの夢工場	茨城県古河市北利根2
3	静岡 住まいの夢工場	静岡県掛川市中1100
4	関西 住まいの夢工場	京都府木津川市兜台6-6-4
5	山口 住まいの夢工場	山口県山口市鋳銭司5000

【関連項目】

> 「住まいの夢工場」 ホームページ

新梅田シティ「新・里山」での教育貢献

2006年7月に本社がある新梅田シティ（大阪市北区）の公開空地内に、「5本の樹」計画の考え方を採り入れ、つくられた約8000m²からなる「新・里山」では、2007年より毎年、近隣の幼稚園、小学校と連携した教育支援活動を実施しています。2017年度は地元の小学生らが、田植えや除草作業、稲刈り、足踏み式脱穀機や唐箕（とうみ）を使った脱穀作業、餅つきなど機械を使わない昔ながらの米づくりを体験。また、幼稚園児らはサツマイモの植え付けとイモ掘り、自然観察会を体験しました。さまざまな農作業体験を通して食とものづくり、自然共生の大切さを学ぶ場として活用されています。

また、オフィスワーカーによるボランティア活動も活発に行われています。新梅田シティで働くオフィスワーカーによるボランティア組織「新梅田シティ里山くらぶ」では、年間を通じて勤務前に活動する「朝活」や、昼休み時間内に活動する「昼活」に加え、かかし作りや田んぼで収穫したモチ米を使った餅つきなども活動の一部に採り入れています。

2014年からは、地域の親子を対象にしたさまざまな自然体験イベントも実施しています。子どもたちによる花苗の植樹をはじめ、生きもの観察や鳥の巣箱づくり、しめ縄づくりといった親子イベントは特に人気の催しとなっています。

「新・里山」で生息する生きものや植物に触れることで、地域の人々に親しまれるコミュニティ形成の場となることを目指しています。

教育支援活動（幼稚園児・小学生対象）

サツマイモ苗の植付（5月）

イモ掘り（10月）

田植え（6月）

草取り（7月）

稲刈り（10月）

脱穀・籾摺り（11月）

新梅田シティ里山くらぶ（オフィスワーカー対象）

田植え（6月）

じゃがいも掘り（6月）

かかしづくり（9月）

餅つき（12月）

冬野菜収穫（1月）

親子イベント（地域住民対象）

キャベツ苗の植樹（4月）

生き物観察会（7月）

花苗の植樹（8月）

しめ縄づくり（11月）

【関連項目】

- 「新・里山」と「希望の壁」
- 新梅田シティ「新・里山」 ホームページ

社会貢献 | 住文化向上

オーナー様に呼びかけて「きずなガーデンコンテスト」を実施

「きずなガーデンコンテスト」を、戸建住宅のオーナー様とのコミュニケーションの一環として2009年から毎年開催しています。

オーナー様の「いつもいまが快適」な暮らしをサポートする情報誌「きずな」と「Netオーナーズクラブ」でコンテストへの参加を呼びかけ、オーナー様の自慢の庭（花の庭、家庭菜園や生き物の来る庭など）やさまざまな「ガーデンライフ」をご応募いただいています。

そのご自慢の庭を、当社の関係部署の担当者と社外の専門家が審査するコンテストです。

審査のポイントは、デザイン面や機能面に優れていることに加え、「いかにオーナー様が庭を楽しまれているか」です。

2017年の当コンテストでは「ガーデン」への関心の高いオーナー様から全4部門「花の庭部門」・「ガーデンライフ部門」・「5本の樹部門」・「アイデア部門」合わせて63件（郵送34件、Net29件）の応募がありました。5月に行われる審査会ではそれぞれの部門賞を選出した後、その中から最優秀賞を決定しています。

最優秀賞を受賞されたオーナー様の元には社外の専門家が同行の上訪問取材し、「きずな」冊子や「Netオーナーズクラブ」に掲載し、積水ハウスのモニターガーデンとして社内外へ情報を発信しています。

一方、本コンテストを通じ、オーナー様から得られるノウハウや課題なども社内で共有し、庭づくりの企画に役立て、オーナー様の満足度アップにも役立てています。

2018年からは昨年までの四つの部門に加え、スマートフォンやデジタルカメラで撮影した写真で簡単に応募できる「スマホ部門」を新設します。

GARDEN CONTEST

きずな
ガーデンコンテスト

KIZUNA GARDEN CONTEST

第9回「きずなガーデンコンテスト」
結果発表と最優秀賞のお宅訪問。

今回で9回目となる「きずなガーデンコンテスト」。
厳正な審査の結果、たくさんの応募作品から佳作と入賞が決まり、
最優秀賞に選ばれた兵庫県三田市の加藤さんを、
審査員でガーデンデザイナーである加地一裕先生と訪ねました。

風にそよぐ緑が
心地よい癒しの庭。

最優秀賞

「きずなガーデンコンテスト」に応募してみませんか？

KIZUNA GARDEN CONTEST

第10回「きずなガーデンコンテスト」に
応募してみませんか？

年に一度の「きずなガーデンコンテスト」が今年も開催されます！
花や木々に包まれたご自慢の庭と、あなたの庭への想いをぜひご披露ください。

今年で10回目を迎える「きずなガーデンコンテスト」。今回から新たに「スマホ部門」が加わり、「花の庭部門」「ガーデンライフ部門」「5本の樹部門」「アイデア部門」の5つの応募部門となりました。皆さんからの応募を心からお待ちしております！

こんな作品を募集しています

「スマホ部門」を新設。
スマホの写真で
簡単に応募できます！

「きずなガーデンコンテスト」にご応募ください

5つの部門に分かれている「きずなガーデンコンテスト」。応募方法は簡単です！
写真と文章であなたの庭への想いをご紹介ください。皆の写真も大歓迎です。

応募部門

応募要項

最優秀賞　ガーデンデザイナー、ナチュラリスト、花卉の専門家など

賞　金　最優秀賞は5万円、各部門賞は3万円

応募方法

応募期間　2019年1月15日必着

結果発表　「Naオーナーズクラブ」（1月中に発表予定）および、「きずな」13号（3月発行）誌面にて発表。

5月号のガーデンコンテスト応募は、「ガーデンFANE」コーナーで、庭のカーテンの写真応募を募集します。一緒にグリーンカーテンを育ててみませんか。

最優秀賞のお宅訪問の「きずな」誌上の記事

「きずな」誌上でのコンテスト告知記事

オーナー様に呼びかけて「きずなガーデンコンテスト」を実施

社会貢献 | 次世代育成

環境教育プログラム、出張授業の実施

地球温暖化防止や環境保全を推進するためには、次世代を担う子どもたちへの啓発活動も大切です。そこで、積水ハウスは「エコ・ファースト企業」の三つの約束の取り組みをテーマとして、体験型学習プログラムを実施しています。また、教育機関と連携して、職場体験の受け入れや出張授業を実施しています。

地球温暖化と暮らしのかかわりを学ぶ キャプテンアースの「いえコロジー」セミナー

実験や予想などの「体験」と「ゲーム性」を取り入れながら、地球温暖化と暮らしのかかわりを学び、「住宅」という暮らしの中にある身近な題材をもとに「エコな暮らし方」の理解と、「子どもたち自らのアクション」を促します。子どもたちの主体性を重視し、「気付き」や「発見」の楽しさから“理科離れ”を解消していくプログラムです。社員自らが「地球防衛軍からやって来た“キャプテンアース”」という名のキャラクターに扮し、授業の講師役を務めます。2015年には、第9回キッズデザイン賞（子どもの未来デザイン　学び・理解力部門）（主催：NPO法人 キッズデザイン協議会）を受賞しました。

45分コースの例 ＜暮らしの省エネ・断熱性能について＞

■講義（10分）

概要、趣旨説明

パワーポイントを投影、子どもたちに質問を投げかけながら、身近な例を挙げ「エコ」と「エコじゃない」について考える。

■実験（25分）

断熱性能の実験①（10分）

放射温度計の使い方を説明。
ポットのお湯と表面温度を測り、「断熱性能」について考える。

断熱性能の実験②（15分）

住宅に使われている部材とドライアイスを使い、温度変化を追求しながら熱伝導について学ぶ。

■まとめ（10分）

- 赤外線サーモグラフィカメラを使って、部材の熱の伝わり方を確認。
- 暮らしの中で「断熱性能」を生かした例を紹介。
- 実験②で使用した部材は住宅のどこの部分で使われているかを説明。断熱性能が優れた部材を利用する事で「エコ」な暮らしができることを理解する。
- キャプテンアースとの約束
  今日から「エコ」な暮らしをするため、自分に何ができるのか、キャプテンアースに約束（発表）する。

お問い合わせ先

コーポレート・コミュニケーション部CSR室
TEL：06-6440-3440　E-mail：csr@sekisuihouse.co.jp

生態系や在来種・外来種問題を考える 「Dr.フォレストからの手紙」

「Dr.フォレスト」と称する緑の専門家（社員）が学校に赴き、校庭などの身近な自然を使って、2時限の授業を行います。「Dr.フォレスト」から出されたミッションをクリアしながら、緑と生き物の関わりを理解し身近な自然に興味を持つことで、その自然を守るために自分たちには何が出来るのかを考え、次の行動につなげていくことを目的としています。2007年には、第2回キッズデザイン賞（コミュニケーションデザイン部門）（主催：NPO法人 キッズデザイン協議会）を受賞しています。緑の専門家（Dr.フォレスト）が学校にやってくる出張授業（講師派遣）、本プログラムをベースにした教員研修（教育委員会、教科研究会などで主催する研修会への講師派遣）を実施しています。

	出張授業	教員研修
	緑の専門家が“体験思考型”環境教育の出張授業を無償で実施いたします。	教師を対象に、授業プログラムを体験する研修を無償で実施いたします。
内容	出張授業プログラム・講師派遣	授業プログラム教材一式提供
対象	小学校4～6年生 （クラス単位または合同での実施）	■ 教育委員会・研修センターなどで研修の企画または講師を担当される方 ■ 各教育委員会が取りまとめる現役の教員
詳細	“Dr.フォレスト”からの手紙	

お問い合わせ先

環境推進部

TEL：06-6440-3047

資源そのものやゴミ分別の大切さを学ぶ 「リサイクラー長官に学ぶトレジャーハントツアー」（施設見学版）

2015年5月にオープンした「積水ハウス エコ･ファースト パーク」において、資源循環について学ぶプログラムを実施しています。ゴミの不法投棄問題等について理解を深めた後、住宅建築で出たゴミを直接触り、それがどのようなものにリサイクルされるのかを学び、資源そのものやゴミの分別の大切さを学びます。現場で回収した廃棄物を分別する「資源の泉」を実際に見学して、たたみや壁紙等の解体の体験もプログラムに盛り込んでいます。

なお、「積水ハウス エコ･ファースト パーク」では、資源循環の大切さ以外にも、地球環境を守るために住まいが果たす役割がたくさんあることを楽しく学ぶことができます。

お問い合わせ先

関東工場 総務部

TEL：0280-92-1531（施設場所：茨城県古河市）

【関連項目】

> 「エコ･ファースト パーク」

社会貢献 | 次世代育成

若き建築デザイナーの登竜門「建築新人戦」の開催を支援

積水ハウスグループでは社会貢献の柱の一つである「次世代育成」のコンセプトのもと、建築を志す学生を積極的に支援しています。エネマネハウス（大学と民間企業等の連携により、先進的な技術や新たな住まい方を提案するZEHのモデル住宅を実際に建築し、住宅の環境・エネルギー性能の測定・実証や、展示を通じた普及啓発を行うプロジェクト）での産学協働、エコ・ファースト・パーク（住まいと環境の関係性を学ぶ当社施設）への誘致などを行っています。
「建築新人戦」は所属する教育機関で取り組んだ設計課題作品を対象に実施するコンテストで、当社はその開催に積極的に協力し、建築を志す学生を応援しています。

建築新人戦

所属する教育機関（大学・短期大学・専門学校・高等専門学校）で取り組んだ設計課題作品を対象に実施するコンテスト「建築新人戦」に当社は2010年から特別協賛しています。毎年9月、一次審査を突破した100作品が梅田スカイビル内の展覧会場に展示され、二次審査（公開審査会）を開催し、最優秀新人を決定。また、1次審査で選出された2人はアジア建築新人戦への日本代表として、同世代のアジア地域12カ国の学生たちとも競い合いました。この梅田スカイビルを舞台とした「建築新人戦」が、建築を志す若者たちにとって自らの構想や技量そして自身の所属する教育環境を問い直す場として、さらには若きデザイナーの登龍門として、定着するよう今後も応援していきます。

100作品の展示

公開審査会

【関連項目】

> 「建築新人戦」ホームページ

社会貢献 | 次世代育成

「弁当の日」応援プロジェクトに参画

弁当づくりを通じて、子どもの生きる力、感謝の心を育む「弁当の日」の取り組み趣旨に賛同した企業が連携して、その普及展開を応援する「弁当の日」応援プロジェクトが2012年に発足し、積水ハウスも参画しています。

「弁当の日」は、子どもの感性、成長をはぐくみます

「弁当の日」の取り組みは、献立づくりから、買い出し、調理、弁当詰めから片付けまで、親は一切手伝わず、すべて子どもたち自身で行います。弁当づくりを通じて、「食の大切さ」「作る楽しみ」「作ってもらう感謝の気持ち」を創出し、子どもの感性、成長をはぐくみます。元小学校校長の竹下和男氏が提唱した「弁当の日」の取り組みは、既に1800校以上の小中学校で実施されています。この取り組みを普及啓発する「弁当の日」応援プロジェクトに、当社も応援企業として参画しています。

取り組み成果が認められ、2014年8月、「第8回キッズデザイン賞」で消費者担当大臣賞（優秀賞）を受賞しました。

「お弁当づくり」から学ぶ食育「弁当の日」イベントを開催

当社は「弁当の日」応援企業として、当社施設である研究所や施設、イベント会場等で「弁当の日」イベントを開催しています。

2017年6月には、埼玉営業本部主催のイベント「埼玉夢博」会場において、一般のお客様を対象に「弁当の日」講演会を実施。管理栄養士・公認スポーツ栄養士の作田雅子氏による「子どもの生きる力につながる『食育』セミナー」を開催するとともに、来場した子どもたちには昔ながらの道具を使ったかつお節削り体験を行いました。削ったかつお節の試食も行い、体験や味覚から食に関することを学んでいただく機会となりました。

作田雅子氏による「子どもの生きる力につながる『食育』セミナー」、かつお節削り体験の様子

2012年～2015年には、「『お弁当づくり』から学ぶ食育 ～食べ物の大切さ、つくる楽しみ、感謝の気持ちを育む「弁当の日」～」を開催しました。

親子で参加していただき、子どもたちは弁当づくりにチャレンジする一方、別会場では「弁当の日」の提唱者である竹下和男氏による講演会「『弁当の日』が生みだす『くらしの時間』」を同時開催。竹下氏は、料理をせずに成長した大学生の食事を例に挙げ、食生活の乱れに警鐘を鳴らすとともに「人は置かれた環境に適応して生きていくので、子どものころから料理にかかわることで、自分で食べる物を自分で管理できる能力が身につき、友達を驚かせたい、家族を喜ばせたいという気持ちが、つくる楽しさと同時に思いやりや感謝の心をはぐくんでいく」と語りました。

講演会の参加者からは「子育てで悩んでいる中、とても心に響く講演だった」「子どもに生きていく力、生活する力を伝えていくことが子育てなんだと再認識した」「単なる弁当の話かと思っていたが、生きること、命を受け継ぐことを教えてもらった」、子どもたちからは「いつもお母さんにつくってもらっているお弁当を自分でつくってみたら意外に難しかった」「ひとりで料理をしたことがなかったからドキドキしたけど、上手にできてうれしかった」「家でもお父さんと弟にお弁当をつくってあげたい。お母さんがしんどい時には、ごはんをつくってあげたい」などの感想が寄せられました。

竹下和男氏による講演会「『弁当の日』が生みだす『くらしの時間』」

子どもたちによるお弁当づくり

【関連項目】

- 「弁当の日」イベントの竹下和男氏のご講演録をご覧いただくことができます
- 「弁当の日」ホームページ

社会貢献 | 次世代育成

「エコ・ファーストの約束」で示した環境テーマが体験できる公開施設「積水ハウス エコ・ファースト パーク」

「エコ・ファーストの約束」で示した環境テーマ「温暖化防止」「生態系保全」「資源循環」への取り組みが体験できる公開施設「積水ハウス エコ・ファースト パーク」を運営。次の世代と共に住まいと環境を学ぶ場を広く提供しています。

当社が取り組み続けてきた、環境活動の歴史の中での象徴的なモデル施設群を関東工場（茨城県古河市）に集め、「エコ・ファーストの約束」で示した三つの環境テーマ（「温暖化防止」「生態系保全」「資源循環」）への取り組みが体験できる施設として、「積水ハウス エコ・ファースト パーク」を運営、広く一般に公開しています（公開開始2015年5月）。

本施設では、快適な暮らしのためには環境配慮設計や技術が不可欠であり、エネルギーをなるべく使わない、生態系を壊さない、廃棄物を出さないといった地球環境を守るために住まいが果たす役割が多くあることを体感しながら楽しく学ぶことができます。このため、広く一般の方々に当社の環境技術の先進性をアピールするだけでなく、小学生の親子向けに環境教育プログラムを実施したり、大学生や高校生に住まいと環境の関係を理解する教材として利用していただいています。今後も継続発展できる施設を目指して、積極的に活用・アピールしていきます。

「積水ハウス エコ・ファースト パーク」全景

「資源の泉」内、「森の教室」の様子
（※「森の教室」は第3回ウッドデザイン賞2017を受賞しました）

ESG投資家の皆様もご見学

畳の解体作業を体験中

ABEイニシアティブ（アフリカ各国から来日された留学生）も見学

年間来場者数

<table>
<tr><th>期間</th><th>来場者数</th><th>社員を除く</th><th>うち、
学生・生徒</th><th>先生と学生・生徒による
来場実績（50音順）</th></tr>
<tr><td>2015年5月19日
（オープン）～
2016年1月31日</td><td>3,428人</td><td>2,452人</td><td>349人</td><td rowspan="3">【大学・高専】
宇都宮大学、小山高専、神奈川工科大学、関東職業能力開発大学校、近畿大学、慶應義塾大学、駒沢女子大学、芝浦工業大学、首都大学東京、筑波大学、筑波技術大学、東京大学、東京家政学院大学、東洋大学、日本大学、日本工業大学、日本女子大学、一橋大学、文星芸術大学、前橋工科大学、明治大学、山形大学
カルガリー大学（加）、シドニー工科大学（豪）、高雄第一科技大学（台）、ハーバード大学（米）、ABEイニシアティブ（アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ）

【専門学校】
中央工科デザイン専門学校、日本工学院専門学校、山脇美術専門学校

【高校】
（茨城県）県立勝田工業高校、県立下館工業高校、県立つくば工科高校
（栃木県）県立石橋高校、県立宇都宮工業高校、県立栃木高校
（埼玉県）県立熊谷高校
（千葉県）県立市川工業高校

【中学校】
茨城県立並木中等教育学校

【小学校】
（古河市）市立駒羽根小学校、市立下大野小学校</td></tr>
<tr><td>2016年2月1日～
2017年1月31日</td><td>4,141人</td><td>3,688人</td><td>1,451人</td></tr>
<tr><td>2017年2月1日～
2018年1月31日</td><td>3,932人</td><td>3,469人</td><td>1,223人</td></tr>
</table>

【関連項目】

- 「積水ハウス エコ･ファースト パーク」のホームページ
- 「積水ハウス エコ･ファースト パーク」のブログ

社会貢献 | 次世代育成

キッズデザイン協議会

積水ハウスは、次世代を担う子どもたちの健やかな成長・発展につながる社会環境の創出を目的とした「キッズデザイン協議会」の発足当初から、協力、支援を行っています。2018年1月現在の会員数は109団体に達しています。

2006年5月、次世代を担う子どもたちの健やかな成長・発展につながる社会環境の創出に寄与することを目的として「キッズデザイン協議会」が発足しました。2007年4月には、業界の垣根を超えて、さまざまな企業や団体、自治体などが集い、特定非営利活動法人（内閣府認定NPO）として設立され、当社は発足当初から、協力、支援を行っています。2018年1月現在の会員数は109団体に達しています。

キッズデザイン協議会では、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」「子どもたちを産み育てやすいデザイン」のこの三つのミッションで活動が行われています。

その一つの活動として「キッズデザイン賞」が設けられ、2017年までに11回実施されています。2013年からは、最上位の賞として「内閣総理大臣賞」も創設されました。

弊社は第1回から継続して応募し、これまでに多数の「キッズデザイン」製品・サービスを開発しています。2017年度は当社の分譲マンションにおける安全・安心のための取り組みなど3部門で計6点が「キッズデザイン賞」を受賞しており、賞の創設以来11年連続の受賞となります。

さまざまなイベントや研究活動に協力

2017年度もさまざまなキッズデザイン協議会の活動に参画しました。

子どもの持つ純粋で直観的な思考や行動、感性を探る『こどもOS研究会』は、キッズデザイン協議会の調査研究部会として2008年の発足以来活動を続けており、当社も積極的に参画しています。

安全に配慮した商品のPR・普及を目的に開催された『セーフティ・グッズ・フェア』（東京都、キッズデザイン協議会との共同主催）では、こどもOS研究会の《子供の遊びあるあるセミナー》に協力しました。

セーフティ・グッズ・フェア
in 京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターアウラホール

2014年にはキッズデザイン協議会が行っている、子どもの安全の向上を目的とする第三者認証制度である「CSD(Child Safety through Design)認証」を『積水ハウスのキッズでざいん　コドモイドコロ』が取得し、子どもの安全視点で開発された商品として、2017年に行われた審査においても高く評価されました。

CSD認証ロゴマーク

関西エリアにおいては、「キッズデザインカフェ」および「キッズデザインミーティングin KANSAI」の活動を推進しています。

【関連項目】

- 積水ハウスのキッズデザイン
- 「NPO法人 キッズデザイン協議会」 ホームページ
- 子どものためのユニバーサルデザイン「コドモイドコロ」
- 2017年度 社外からの主な評価
- こどもOS研究会

社会貢献 | 環境配慮

「企業の森」制度への参加をはじめとする森林保全活動

和歌山県「企業の森」事業に参画し、取り組み10年を経て、同じ田辺市中辺路町にて新たに「積水ハウスの森」を開始しました。「5本の樹」計画に考慮した森林保全活動を継続します。また、「東京グリーンシップアクション」八王子滝山地域および大谷地域の里山保全活動へも継続参加しています。

和歌山県「積水ハウスの森」第2期スタート！

積水ハウスは、2006年から「企業の森」事業※に参画し、森林環境保全活動に取り組んでいます。これは、和歌山県が推進する環境貢献に関心の高い企業が県内の自然を活用して地域の方々と共に取り組む活動です。

2015年、10年間の節目を迎え、「積水ハウスの森」での森林保全活動により森が十分成長してきたため、管理を森林組合に引き継ぎ、2016年秋の活動から、今までの活動地から約10㎞東方に移動し、世界遺産・熊野古道に近接した場所（1.6 ha）で第2期目をスタートしました。

70人が参加した2017年春は、作業前の準備運動として、森林組合の方々の協力のもと、薪割りを行ないました。保全活動の方は、作業用の歩道修理、鹿の食害から苗木を守るための周囲のネット修理、時期的に大量に出てきた下草刈りなどの作業を行ないました。また、秋の活動は、雨のため現場での作業は中止となりました。集まってくれた参加者のために、森林組合の方々が、紅葉した葉っぱを使った栞作り、丸太切り競争、杉玉作りなどを企画してくださり、地元の方々とのコミュニケーションを図りました。また、本社「企業の森」WGメンバーを中心に、往復の車中や現場でのゴミ分別等の環境活動を徹底し、実りの多い森林環境保全活動となりました。

今後も春・秋の2回、新たな植樹や補植、下草刈り、肥料やりなどの作業を行い、豊かな森を次世代に伝える「積水ハウスの森」の整備に取り組んでいきます。なお、2017年秋の活動を終え、参加人数は延べ1667人となりました。

集合写真

薪割

ネット修理

下草刈り

※ 企業が地元の森林所有者の伐採地を借り、植樹や下草刈りに参加することで、十分な手入れが行われない放置森林や荒廃森林の増加を防ぐために、森林保全を目指す制度。特に和歌山県では、森林の豊かな土地で、日常的な管理を地域の森林組合に委託することで、地域活性化や雇用支援にもつながる取り組みとして、県が積極的にコーディネートし、取り組んでいます。

「東京グリーンシップアクション」八王子滝山・八王子大谷地域里山保全活動へ継続参加

2017年は6月と11月の2回にわたり、東京営業本部内8支店（東京北、東京西、東京南、多摩、町田、武蔵野、東京シャーウッド、東京分譲）が合同し、「東京グリーンシップアクション」八王子滝山地域および大谷地域の里山保全活動に参加。今回で合計8回となりました。

「東京グリーンシップアクション」とは、東京都条例に基づき、都内に残る貴重な自然地を守るために、東京都、NPO、企業とが連携して行う自然環境保全活動です。

活動場所は、東京都八王子市北部に位置する4ヘクタールの保全地域で、当初は長年の管理不足によるアズマネザサの繁茂や外来種の侵入などが見られました。良好な里山環境を取り戻すため、当初2年間は多様な生き物の生息空間に配慮しながら、ササの伐採、倒木処理、池づくりを行いました。また、昨年からは放棄された水田を復活させ、今年で3度目の収穫となりました。来年はさらに水田面積を増やし、水路周辺の環境を整え、里山の代表的な生き物であるホタル（ゲンジボタル、ヘイケボタルの2種）の生息数を増やしていく予定です。

「エコ・ファースト」の約束の一つである「生態系ネットワークの復活」の具体的な取り組みとして、今後も社会や未来のために活動を継続します。

八王子滝山保全活動参加者の集合写真

作業の様子

社会貢献 | 地域社会への貢献

経年美化のまちづくり

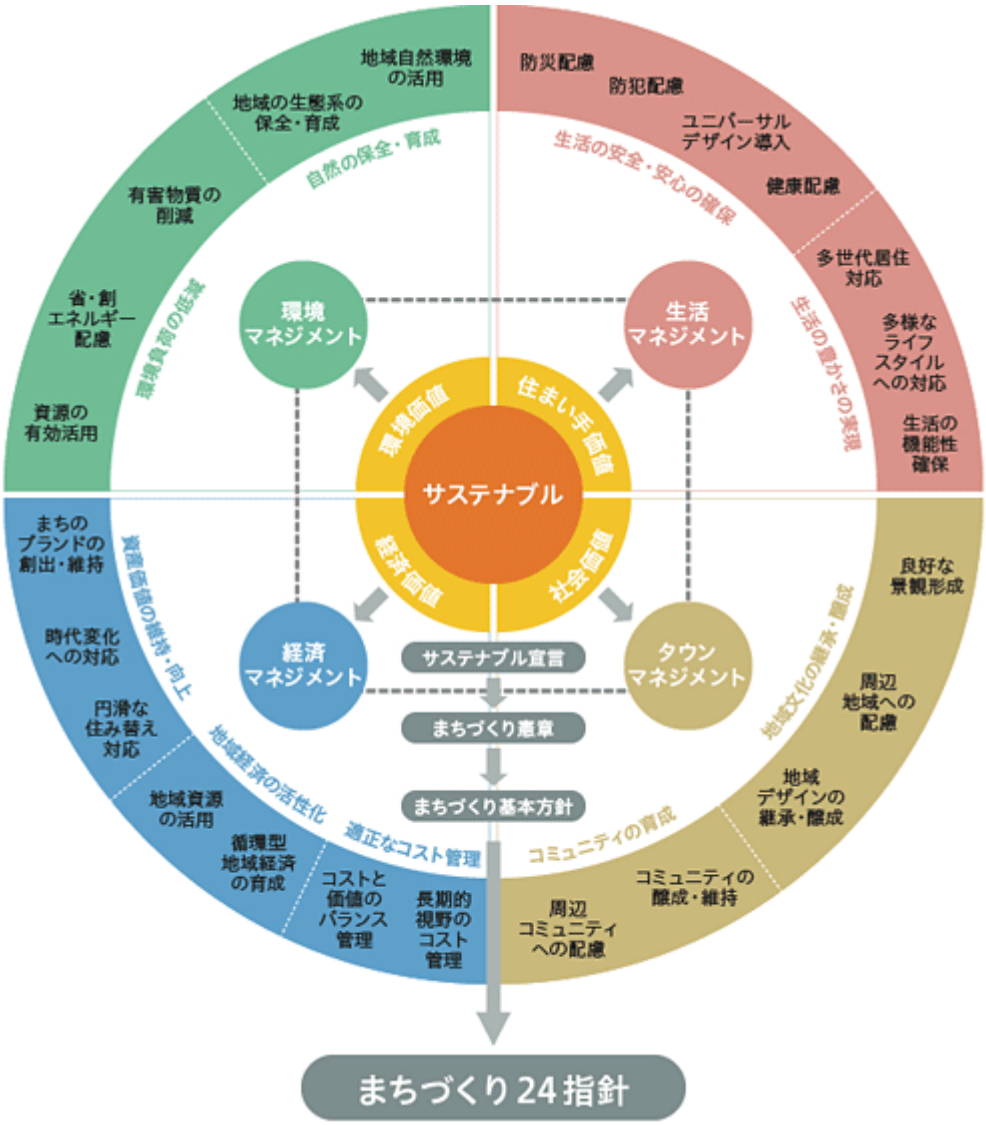
積水ハウスは「コモンライフ」「コモンシティ」と名付けたまちづくりに取り組んできました。隣人同士のつながりやコミュニティを意識して設計し、緑豊かな共有広場や街路をシンボルとして設置するなど、より豊かな暮らしとまちのあり方への提案は、歳月を重ねるごとに美しくなる経年美化にもつながり、地域の皆様から高く評価されています。2014年からは「5本の樹」計画を柱としたまちなみ評価制度「コモンズ」の運用により、自然環境と調和したサステナブルなまちづくりに取り組んでいます。2017年度には78%の分譲地が、達成基準の★3をクリアしました。

当社は、1977年から「コモンライフ」「コモンシティ」と名付けたまちづくりに取り組んできました。コモン（Common）とは「共有の」を意味する英語で、当社の創業当初からのまちづくりのコンセプトです。その当時からみどりあふれるまちづくりを進めてきましたが、2001年に「5本の樹」計画を開始し、生物多様性に配慮した在来種植栽を念頭に緑の質にこだわったまちづくりを進めています。また、2005年に住宅メーカーとして未来への責任を果たすために、「サステナブル宣言」に基づき、「まちづくり憲章」を制定しました。

これは当社のまちづくりの中で培われてきた「5本の樹」計画を始めとしたさまざまなノウハウを、持続可能性の考えに基づいて表現したものです。当社が考える4つの価値（環境価値・経済価値・社会価値・住まい手価値）をベースにした「環境マネジメント」「経済マネジメント」「タウンマネジメント」「生活マネジメント」の4つの視点を持ち、具体的な24の指針を考慮しながら「スマートコモンシティ」をはじめとしたまちづくりを進めています。

まちづくり憲章

人がいつまでも安心して豊かに暮らしていくために
かけがえのない地球の自然と環境をまもり地域の文化とコミュニティを育み
地域経済の活性化に貢献するとともにまちの資産価値を守ることが私たちの願いです。
積水ハウスは社会の責任ある一員として
住まいとまちがつくりだす住環境を人の大切な生活基盤と受け止め
まちづくりを通して持続可能な社会の構築に寄与することを目指します。



まちなみ評価制度COMMON'S

富谷市コモンシティ明石台（宮城県）

2006年には「まちなみ参観日」をスタートし、緑豊かで経年価値を高めていく、独自のまちなみへの取り組みを、常に時代を先取りする形で進めてきました。

一方、中小規模の分譲地や売建中心の分譲地においては、生態系の配慮やまちなみの景観形成の面で改善余地のあるケースも散見されたため、2014年、全国の当社のまちなみを一定のレベル以上に守る目標として、まちなみ評価制度「COMMON'S」を創設しました。

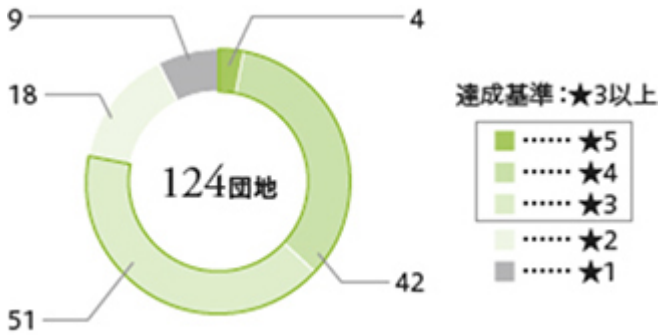
「COMMON'S」は、周辺環境との調和を図る「5本の樹計画」「統一感のあるまちなみデザイン」「建物エクステリアデザイン」の三つの項目について基準を設け、★1～★5の5段階で評価ランクを定め、★3以上を達成目標としています。2017年度には評価を行った124団地のうち、78%の97団地が★3をクリアしました。2017年度は取組団地が大幅に増加しています。

評価項目

① 5本の樹計画

② 統一感のあるまちなみデザイン

③ 建物エクステリアデザイン



「経年美化」のまちづくりを実践

当社はまちづくりにおいて、歳月を重ねていくごとに美しくなる「経年美化」の思想を実践しています。

「経年美化」のまちづくりとは、自然環境や原風景を生かした景観づくりを目指し、劣化しない素材を選んで耐久性の高い施工方法を採用すること（ハード面）と、豊かなコミュニティが生まれる環境も配慮し、まちが完成した後の運営と環境との調和を図る循環型の暮らし（ソフト面）とのバランスによって成り立ちます。

資産価値を求めるばかりではなく、地域文化とコミュニティをはぐくみ、さらに、地域生態系本来のバランスを基本とし、将来にわたってすべての人が快適に暮らせる持続可能な「まち」であること。それが当社の目指す「経年美化」のまちづくりです。

広島県にある大型団地「みどり坂」では、戸建分譲地エリアではみどりが育ち経年美化しており、新しい街区も順調に創られています。換地で得た大型土地のオーナー様による賃貸住宅が建ち並ぶ街区においても、団地協定を守ったみどりの管理による「経年美化」のまちづくりができています。

2003年撮影
みどり坂（広島県）

2016年撮影

コモンステージ相模大野

2015年にまちびらきが行われたコモンステージ相模大野は緑に恵まれた相模原市にある総区画数84の分譲地です。約1万5000㎡の敷地はかつて“ふれあいの杜（もり）”として親しまれており、「ふれあいの杜」の名にふさわしく、緑豊かで次世代に受け継がれるまちなみづくりを目指しています。

「まちなみは共有財産である」という考え方を実現すべく、「コモンステージ相模大野まちづくりガイドライン」を制定し、まちなみづくりに取り組んでいます。また、太陽光発電やエネファームによって「省エネ・創エネ」にも街全体で取り組むとともに、子どもたちの見守りや安全・安心を目指した「セキュリティタウン」とし、より安心してお住まいいただけるように道路の幅や交差点の見通しにも充分に配慮をしたまちなみ設計しています。まちびらきから3年が経過して、9割近くの方にご入居頂き、「ふれあいの杜」にふさわしい緑豊かな麗しいまちなみが形成されてきました。

安全・安心・快適なまちなみ・コミュニティを体感する「まちなみ参観日」

特色ある当社のまちづくりや住まいづくりを多くの方々にご紹介、ご案内することを目的に、2006年から「まちなみ参観日」を春と秋の年2回、全国各地で開催しています。

2017年度は、春の「まちなみ参観日」を戸建住宅192会場・分譲マンション物件11会場で、秋の「まちなみ参観日」では戸建住宅153会場・分譲マンション6会場でそれぞれ開催し、当社のまちづくりと住まいづくりを体感いただきました。

「まちなみ参観日」のまちなみと建物

社会貢献 | 地域社会への貢献

「ひとえん」づくりによるコミュニティの醸成

住民間の豊かな関係の形成を目指し、積水ハウスのまちにおけるコミュニティを「ひとえん」と名付け、まちづくりを進めるとともに、「ひとえんイベント」などの活動を支援しています。2016年は、埼玉県が推進する「共助」を切り口に「コモンライフ武蔵藤沢」にて「共助のまちづくり」を行いました。

人口減少や少子高齢化などが進む中、高齢者への生活支援、介護・育児に関する相互扶助、治安の向上や災害時対応など、顕在化するさまざまな課題への対応がコミュニティに求められています。当社では、まちづくりの際に「コミュニティの育成」に重点を置き、住まい手と共に成長・成熟していくまちのコミュニティづくりを支援しています。住民間の豊かな関係を形成していくことを目指し、当社のまちにおけるコミュニティを「ひとえん」と名付け、まちづくりに生かすとともに、取り組みをサポートしています。

「ひとえん」づくりのメニューとして、「ひとえん」を始めるきっかけづくりとして「ひとえんイベント」を提案しています。住民の方に準備段階から参加していただくことや、住民に積極的に参加していただくための企画を行っています。2017年は戸建住宅団地で延べ42回（30団地）、マンションで16回（15カ所）開催し、参加者総数は2606組、6592人でした。2009年に取り組みを開始して以来、全国各地の団地で延べ498回の開催となりました。

「ひとえん」を活用した「共助のまちづくり」（コモンライフ武蔵藤沢）

当社分譲地である「コモンライフ武蔵藤沢」（埼玉県入間市）において、埼玉県が推進している「共助」を切り口に、当社がこれまで行ってきた「ひとえん」の取り組みをベースに新しいまちづくりを提案。2014年度の国土交通省「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業＜一般部門＞」に選定され、全16区画の分譲地である「コモンライフ武蔵藤沢」にて、「ひとえん」をはぐくむまちづくりを行いました。

建売住宅を「ひとえんラボ」として半年間一般公開し、見学用の住宅としての機能以外にも、NPOと連携して子育て支援イベントを行う場としての機能を持つ、コミュニティづくりの核となる施設として運営しました。

また「ひとえんラボ」が面する分譲地内の共用スペースを「ひとえんコモン」と名付け、子どもたちの遊び場としても利用できるよう計画。子どもたちの交流を通じた輪が親世代に、そして分譲地内だけでなく近隣住民にも広がり、多世代の住民同士の自然な交流が生まれ「安全・安心」のコミュニティがはぐくまれることが期待されます。

今回のまちづくりにおける経験と知見を生かし、今後も「共助」の考え方に基づく提案を継続していきます。

全16戸の敷地計画

NPOと連携して行った子育て関連イベント

【関連項目】

> 2014年度の国土交通省「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業<一般部門>」 の完了報告書（PDF:4183KB）

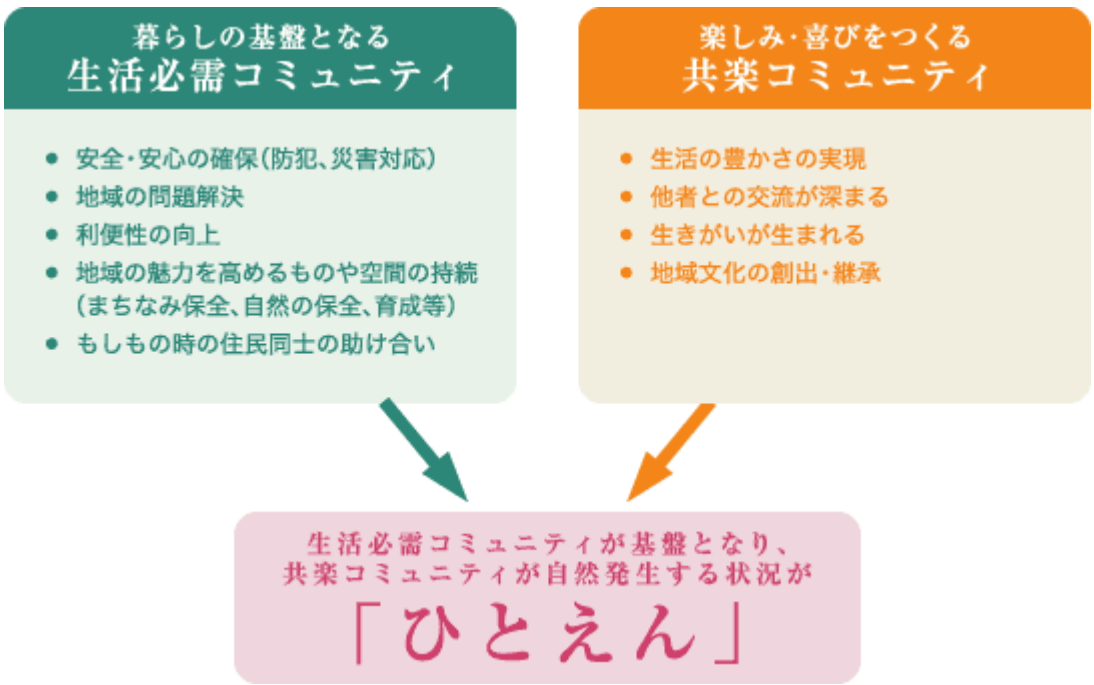
3つの視点を体系化し、良質なコミュニティづくりに寄与する「ひとえん」

良質なコミュニティづくりのためには、普段のご近所付き合いができる場づくりと、そこで生まれる住民の方の会話のきっかけづくりが必要で、さらにコミュニティの継続のためには、きっかけづくりで生まれた住民同士の関係を維持しながら、まちの管理を行う組織づくりが必要であると考えています。

当社はこれまでのまちづくりの実績で培ってきた経験やノウハウをもとに、暮らしの基盤となる「生活必需コミュニティ」から、楽しみ・喜びをつくる「共楽コミュニティ」が自然発生する状況を「ひとえん」と名付け、当社のまちで「コミュニティ育成支援メニュー」として設定しました。

そしてこの「ひとえん」を、住宅メーカーとして直接関与できる「場づくり」、コミュニケーション活性化のための「きっかけづくり」、まちの管理などを担う「組織づくり」という3つの視点から考え、まちのコミュニティ形成に寄与しています。

また、きっかけづくりと組織づくりを担う「まちづくりアドバイザー」も配置し、コミュニティの成熟段階に合わせて適材・適時、良質なコミュニティづくりをサポートしています。



「ひとえん」の舞台となる「場」づくり

住民同士が出会い、集う場（空間）づくりや、わがまち意識を醸成する愛着空間づくりを行います。（維持管理ルールも含みます）

- 一つの庭からまちを育てる「つながる庭」
- まちに点在する集まり場「いどばたスペース」
- さまざまな活動ができる「コモンプラザ」「コモンパーク」
- わがまち意識を醸成する「まちの顔」

「ひとえん」を始める「きっかけ」づくり

住民同士が出会うイベントの実施や、コミュニティ活動の声掛けなどのきっかけづくりを行います。

- 食事系（食事会・隣人祭りなど）
- 花緑系（植樹祭・ガーデニングイベントなど）
- 維持管理系（公園の草刈り・住まいのお手入れセミナーなど）

「ひとえん」の核となる「組織」づくり

コミュニティの代表として、住民の意見をまとめる組織の設立サポートや、加入促進を行います。

- 自治会
- 管理組合
- 建築協定委員会

社会貢献 | 地域社会への貢献

既存郊外住宅地の持続可能な住環境の実現を目指す取り組み

積水ハウスは、まちびらき後20年超の当社郊外戸建住宅地を主な対象とし、「持続可能なまちづくりの実現」に向けた取り組みを進めています。2017年も「多世代交流の場と機会の創出」、「暮らしを継続できる拠点整備」を見据えた取り組みを継続実施しました。

近年、暮らしの利便性を求めて、都市に移り住む生活者が増加する一方で、かつて都心部の人口増加の受け皿として開発された近郊～郊外の住宅団地では、住民の高齢化、地域コミュニティの希薄化、空き家や空き地の増加などが顕在化し、社会問題化してきています。当社は、地域コミュニティ活性化と持続可能な住環境の実現に向けた取り組みを各地で進めています。住民の満足度と、当社との信頼関係をさらに向上することを目指した交流イベント「まち・ひと・げんき祭」を継続的に開催。住まい、まち、暮らしに関する相談窓口となる拠点の整備も視野に取り組みを進めています。

『コモンシティ星田　まち・ひと・げんき祭』

当社の代表するまちづくり事例である「コモンシティ星田」（大阪府）において、地域コミュニティ活性化イベントとして2015年秋から半年に1回「まち・ひと・げんき祭」を継続的に開催しています（2017年も2回開催し合計5回開催）。

2017年の2回の開催では地域住民の協力を得て、フリーマーケットなど一部自主運営をしていただきたいへん好評でした。

フリーマーケットの様子

写真展

「ふれあいリフォームプラザ」の運用開始

2017年3月より住宅地内にリフォーム建材設備の展示ショールーム「ふれあいリフォームプラザ」がオープンしました。積水ハウスリフォーム中日本株式会社の週末拠点として営業しており、興味をもたれる住民も増えてきました。

「ひとえんプラザ」の運用開始

地域に貢献するモデルづくりの第一歩として、地域コミュニティ醸成に寄与する場づくりを実践しています。

2017年10月より、地域開放の場として交流拠点「ひとえんプラザ」を開設。自治会や地元福祉委員会と連携し、地域サークル活動、子育てサロン、児童との交流活動などをサポートできる拠点整備の運用を進めています。

あいさつ運動 原画展

えほんのひろば

『コモアしおつ　まち・ひと・げんき祭』

「コモアしおつ」（山梨県）でも、まちびらきから25周年を記念した住民の皆様への感謝祭として、2016年11月より半年に1回「まち・ひと・げんき祭」を開催しています。第3回の開催となった2017年秋には過去2回の開催からヒントを得て「健康」、「ガーデン」をテーマとしたイベントを企画しました。

健康

- NHK「ガッテン！」にも出演された慶應義塾大学伊香賀俊治先生による住環境と健康の関係に関心を持ってもらうためのレクチャーと健康チェック

- 慶應義塾大学齋藤義信先生による健康的なウォーキングフォームのレクチャー後、フォームと健康強度を確認しながら景色を楽しむ散歩企画

ガーデン（イベントの会場はすべて住民のお宅の庭）

- **「オープンガーデン」**
  コモアしおつにお住まいの方の素敵なお庭をいくつか公開してもらい、住民の方にオープンガーデンのお宅を記したマップを片手にまち中を歩いてもらうイベント。

- **「庭木のお手入れセミナー」**
  当社の「樹木医」が庭木のお手入れ方法を実践しながら説明するイベント。

- **「花のガーデン教室」**
  ガーデニングのプロをお呼びし、クリスマスに向けた寄せ植えワークショップと植え込みセミナーを開催。

美しい紅葉を眺めながらのウォーキングやオープンガーデンなど、多くの方に楽しく参加していただき、住まいやガーデン、健康にさらに関心を持っていただくイベントになりました。

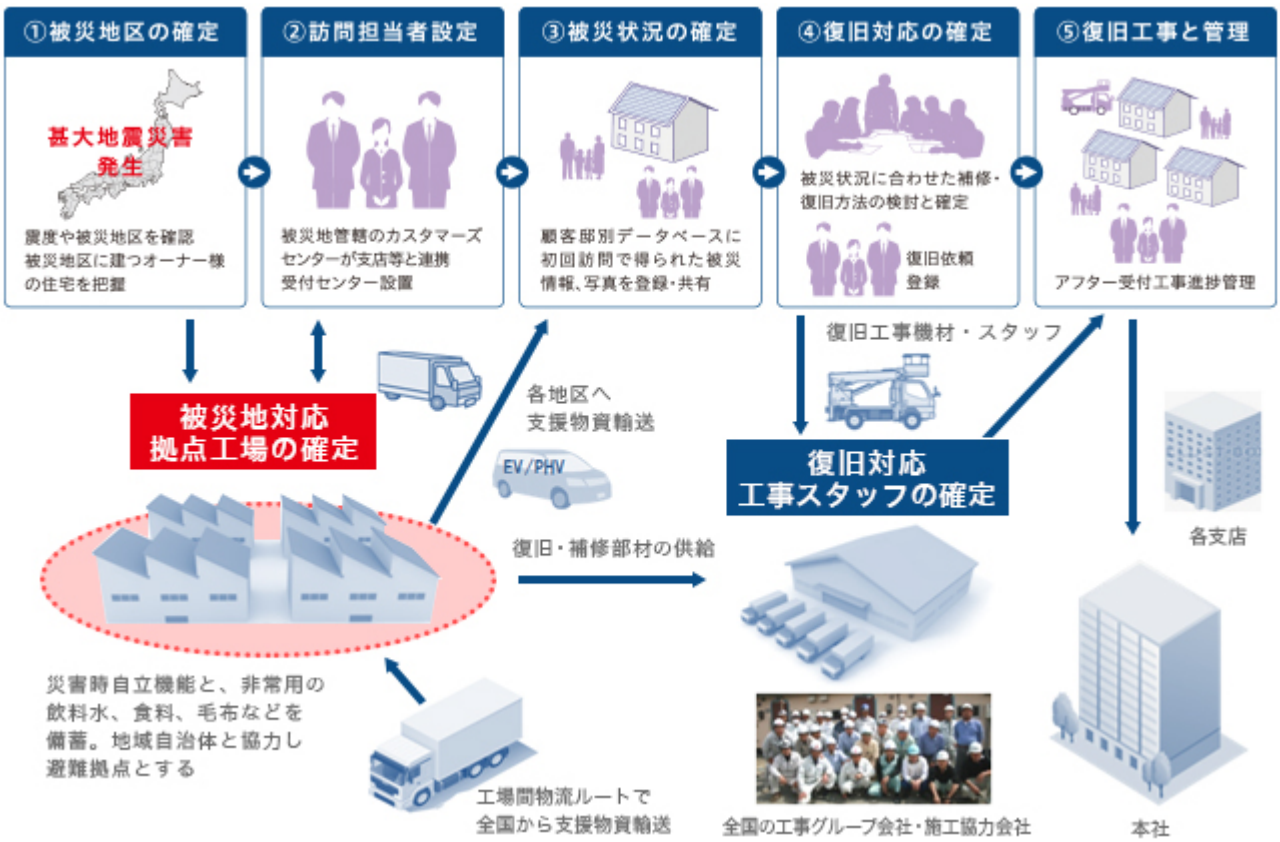
当社と住民の皆様とのつながりを深めることができたのはもちろん、ご自慢のお庭を他の住民の方に見学してもらうことで、花の種類やお手入れ方法の情報を共有したり、住民の方同士の交流も生まれていました。今後もコモアしおつを盛り上げるイベントとして継続していく予定です。

社会貢献 | 地域社会への貢献

災害時の復旧支援体制

自然災害が発生した場合の被災者の安否・被害情報の確認や支援体制の確立などに、迅速に対応しています。積水ハウスグループとして、災害時のお客様の暮らしの迅速な復旧を目指し、情報から物流に至るまで災害に備えた体制を整備しています。東北工場における「防災未来工場化計画」はこの一環です。

支援の流れ



① 甚大地震発生時、被災地区のオーナー様情報をデータベース（DB）から把握。被災地に最も近い工場が災害対応拠点として自立始動。全国拠点から順次、備蓄品を補給。

② DBから得られた被災地域オーナー様の安否確認や建物調査の担当者を決定。被災地域からのホットライン、専用窓口を開設。

③ 被災状況の確認、DB登録。必要に応じオーナー様に支援物資を提供。

④ 復旧方法の検討と決定、全国ネットワークで具体的な工事体制が始動。

⑤ 復旧工事に着手。対応記録は事業所・本社に保管。

震災発生時にも「お客様と地域のために」を判断基準に速やかに対応

静岡工場では、新潟県中越地震（2004年）を支援した経験を生かし、従業員だけでなく、地域の皆様にとってもお役に立つものにするために、備蓄品は、食料や水といった生活必需品から復旧用の工具やシャベル、医薬品など多岐にわたってそろえており、東日本大震災（2011年）においては、主要交通網が寸断された被災地のお客様や事業所に向け、支援物資の供給を早急に行いました。地震発生3時間後には静岡工場に備蓄している水や食料をトラックに積み、被災地に向け第一便が出発。その後も順次、現地に支援物資を輸送しました。支援物資はお客様や従業員だけでなく、病院や避難所、一般被災者の方々にもお渡ししました。また、、グループ一丸となり、炊き出しや支援物資受付に使用するテントと仮設トイレの設置、賃貸物件の一部を被災者支援住宅として提供しました。また、2016年4月の熊本地震では、当社オーナー様宅で人的被害や家屋の全半壊はありませんでしたが、オーナー様に一日も早く平穏な暮らしを取り戻していただけるよう、復旧・復興に取り組みました。

九州北部豪雨災害でも迅速に初動対応

2017年7月5日から6日にかけて、福岡県と大分県を中心とする九州北部で集中豪雨が発生し、甚大な被害をもたらしました。当社の建物に大きな被害はありませんでしたが、6日8時に対策本部（九州営業本部内）と現地対策本部（九州西カスタマーズセンター・九州北カスタマーズセンター内）を設置。特に集中的な豪雨に見舞われた福岡県朝倉市・大分県日田市を中心に「安心電話」や「見守り訪問」を実施し、9日にはエリア内全1146件のお客様フォローを完了しました。フォローの結果、浸水被害があった13件のうち、4件のオーナー様宅は至急対応が必要と判断し、九州の三つのカスタマーズセンターが連携し、延べ57人の所員で泥出しなどの対応に当たるなど、一日も早く平穏な暮らしを取り戻していただけるよう復旧活動に取り組みました。また、復旧後も継続してお困りごとに迅速に対応しました。

手作業で泥をかき出し

泥出し後は泥まみれに

泥出し作業後にオーナー様（U様）ご夫婦（右端）と一緒に

防災未来工場化計画

当社東北工場（宮城県加美郡色麻町）で防災未来工場化計画を実施しています。当社独自の「住宅防災」の考え方を基軸に、オーナー様や地域住民に安全・安心を提供。スマートエネルギーシステムを整備し、災害時の初動迅速化とエネルギー自衛化を図るとともに、災害に強いコミュニティの先進的な連携モデルの構築を目指すものです。

防災機能を強化し、災害発生時には、東北地域のオーナー様への緊急サポート拠点として機能するだけでなく、近隣エリアの避難所として機能するとともに、必要最低限の電気・水・ガスを確保。色麻町との防災協定に基づき、住民、地域組織とも防災連携を深め、実践的訓練を実施することにより、災害に強いコミュニティづくりに貢献し、地域全体の防災力を高めていきます。

2015年3月に開催されてた「第3回国連防災世界会議」では、東北工場のスタディツアー（被災地公式視察）の公式視察地として最多（29カ国201人）の参加がありました。

【関連項目】

- 自然災害発生時の対応
- 自然災害からの復旧・復興に向けた取り組み

社会貢献 | 地域社会への貢献

「チャイルド・ケモ・ハウス」の運営に協力

積水ハウスはNPO法人 チャイルド・ケモ・ハウスの活動を応援しており、建物の建設に当たって約2億2000万円の寄付を実施したほか、総合設計・企画および施工を担当しました。また、建設後も、さまざまなかたちで支援活動を行っています。

小児がんと闘う子どもが、家庭のような環境で治療に専念できる「チャイルド・ケモ・ハウス」の建設に協力

「チャイルド・ケモ・ハウス」は、NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウスが2006年から建設実現に向けて活動を続けてきた「がんと闘う子どもたちが暮らすケアホーム」で、2013年3月に完成しました。 「病院」や「施設」ではなく、「家」に近い環境で、親やきょうだいと暮らしながら治療を行えるメリットがあります。当社はこれまで、従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を通じて、 NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウスの活動を応援してきました。今回の建設に当たっては、約2億2000万円の寄付を実施したほか、総合設計・企画および施工を担当しました。また、建設後もさまざまなかたちで運営に協力しています。

「チャイルド・ケモ・ハウス」外観

建築概要

【建築地】 神戸市中央区港島中町8丁目5番3（ポートアイランド 神戸医療産業都市内）
【建築主】 公益財団法人 チャイルド・ケモ・サポート基金
【総合設計・企画】 手塚 貴晴、手塚 由比、株式会社手塚建築研究所、積水ハウス株式会社
【施工】 積水ハウス株式会社
【構造・規模】 重量鉄骨造（ベレオ）／地上1階建
【延床面積】 1931.50m²

自然光を多く採り入れることができるよう天窓を随所に配置したほか、子ども視点のクリーンな空気環境を実現する当社独自の空気環境配慮仕様「エアキス」を採用しています。また、外構には「3本は鳥のために、2本は蝶のために」をコンセプトに、生物多様性に配慮した「5本の樹」計画の考え方をもとに、在来種を中心とした植栽を実施。大きな窓から、樹木に訪れる野鳥や蝶を眺めることで、情操教育にもつながります。

また、2013年10月には、同施設内に子どもたちがリラックスして診療を受けられる「乳幼児診察室」を新たに開設。当社の「キッズでざいん」などの要素を取り入れ、積水ハウスリフォームが施工を担当しました。

受賞歴

「グッドデザイン賞」（2015年）主催：公益財団法人日本デザイン振興会
「第17回人間サイズのまちづくり賞」まちなみ建築部門（2015年）主催：兵庫県
「第2回神戸市都市デザイン賞」まちのデザイン部門　建築文化賞（2014年）主催：兵庫県神戸市
「第7回キッズデザイン賞」キッズデザイン協議会会長賞（奨励賞）（2013年）主催：特定非営利活動法人キッズデザイン協議会

社員を通じたさまざまな支援活動

本社部門の社員に呼び掛けて、2013年度より「チャイルド・ケモ・ハウス」の施設見学会を実施しています。毎回、定員を超える社員が参加し、チャイルド・ケモ・ハウス事務局の方のお話を直接聞くとともに、チャリティグッズの購入や施設内外の清掃活動を行いました。

また、参加者が全員おそろいのチャリティTシャツを着用し、神戸の街を歩く「チャリティウォーク」へも2013年開始当初より、毎年参加しています。

他にも、売り上げの一部を寄付する自動販売機の設置やグランフロント大阪「住ムフムラボ」内で募金を呼び掛けるコーナーを設置するなど、継続的に支援を行っています。

社員を対象とした「チャイルド・ケモ・ハウス」の見学会、施設の清掃活動

チャリティウォークへ社員有志で参加

グランフロント大阪「住ムフムラボ」内の募金コーナー

各地に設置されている寄付型自動販売機
＜左：兵庫シャーメゾン支店（兵庫県）、中央：総合住宅研究所（京都府）、右：リフォーム研修センター（滋賀県）＞

「ベネフィット・ステーション」を通じた寄付活動

当社で導入している福利厚生代行サービス「ベネフィット・ステーション」を通じた寄付活動に取り組んでいます。ベネフィット・ステーションで提供している宿泊施設やショッピングなどをするごとにたまっていく専用のポイント「ベネポ」を使い、1ベネポ1円相当として、100ベネポ単位で寄付することができます。

Benefit Station × 小児がんと闘う子どもと家族のための施設 チャイルド・ケモ・ハウス child chemo house

「積水ハウスマッチングプログラム」を通じた活動支援

会社と従業員の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を通じて、2008年から活動を支援。小児がんのケアにかかわる看護師等のスタッフ育成プログラムの作成に向けた研究活動や子どもたちの苦痛を和らげ快適な環境をつくるためのツール開発、社会への啓発活動等をサポートしました。

	助成プログラム	助成金額
2008年度	小児がんの患児のケアにかかわる スタッフトレーニング＆エンパワーメントプロジェクト	1,092,000円
2009年度	小児がんの患児のケアにかかわる スタッフトレーニング＆エンパワーメントプロジェクト	1,280,000円
2011年度	小児がんの子どもと家族を笑顔にするための活動の研究と実施	1,000,000円
2014年度	長期間入院中の子ども達への教育サポートプログラムの構築と実践	800,000円
2015年度	長期間入院中の子ども達への教育サポートプログラムの構築と実践	800,000円

【関連項目】

> 「NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウス」ホームページ

社会貢献 | 地域社会への貢献

公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」

神戸市における国際的・文化的なコミュニティづくりに資する事業や活動を助成する基金を設立し、NPOなど多くの団体を支援しています。

1996年、六甲アイランド（神戸市東灘区）と深いかかわりのある積水ハウスとP&G社が共同で、神戸市における国際的・文化的なコミュニティづくりに資する事業や活動を助成する基金を設立。NPOなど多くの団体の活動を支援しています。

2017年度は30件の活動に1703万円を助成し、これまでの助成金額累計は4億5965万円となりました。

基金の仕組み

当基金は主務官庁である兵庫県の許可を受け、委託者（当社、P&G社）が公益を目的として受託者（三井住友信託銀行）に財産の管理・運用を委託しています。助成先、金額については年1回開催される基金運営委員会で決定されます。

国際コミュニティづくり事業

在日外国人や新たに来日した外国人に対する日常生活ガイダンス活動、地域住民との交流活動、情報交換活動等。

	受給者氏名	助成対象
1	定住外国人子ども奨学金 実行委員会	外国にルーツを持つ子どもの進学支援と豊かなまちを創生するための課題普及活動
2	北野こくさい夏祭り実行委員会	北野こくさい夏祭り
3	NPO法人全日本アマチュアエアロビクス連盟	第3回 国際フィットネスコンベンション in KOBE
4	RIC音楽工房	第23回 みどりの風コンサート
5	特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター	共生のための市民性教育カリキュラム作成
6	西区連合婦人会	国際交流の夕べ なでしこの盆
7	RICコミュニティライブラリー	RICコミュニティライブラリー（地域図書館）の運営・管理
8	神戸市立六甲アイランド高等学校	地域の特性を活かした国際理解教育とコミュニティーづくりの推進
9	多文化まちづくりの会	多文化交流フェスティバル
10	NPO法人関西ブラジル人コミュニティCBK	多文化交流ネットワークづくり
11	六甲アイランドカップ実行委員会	六甲アイランドカップ
12	特定非営利活動法人実用日本語教育推進協会	日本語を核とした新しい形の国際 交流サロン事業
13	摩耶登山マラソン実行委員会	第5回シム記念・摩耶登山マラソン
14	ひょうごラテンコミュニティ	フィエスタペルアナ神戸2017 ～南米にルーツを持つ子どもたちと民族ダンスを通して交流しよう～
15	六甲アイランドチューリップ祭実行委員会	六甲アイランドチューリップ゜祭と関連事業
16	あじさいコンサート実行委員会	第23回あじさいコンサート ～未来へ～ 音楽でつなぐ心と絆
17	Community House and Information Center (CHIC)	コミュニティ・ハウス＆インフォメーション・センター（CHIC）
18	多文化と共生社会を育むワークショップ	みんなでつくる文化と共生社会（The KOBE Globe Ⅱ編）
19	六甲アイランド地域振興会 商業部会 ウェルカムフェスティバルプロジェクト	「六甲アイランドウェルカムフェスティバル2017」

	受給者氏名	助成対象
20	六甲アイランド地域振興会 商業部会 ハロウィンフェスティバルプロジェクト	「六甲アイランドハロウィンフェスティバル＆収穫祭2017」
21	六甲アイランド地域振興会 スポーツ振興部会 スポーツ振興プロジェクト	「RIC SPORTS EXPO 2017」
22	インターナショナル・キッズ・デイ実行委員会	「International Kids' Day （インターナショナル・キッズ・デイ）」
23	六甲アイランドCITY自治会	「第30回RICサマーイブニングカーニバル」
24	RICふれあい会館	「外国人講演会」及「住民トーク」
25	NGO神戸外国人救援ネット	「外国人のための総合相談事業・支援活動の実施及び今後の外国人支援活動の在り方を考えるワークショップ開催と提言レポート作成」
26	W・S ひょうご	外国籍DV被害女性とその子どもへの支援活動
27	特定非営利活動法人アジア女性自立プロジェクト	在日外国人女性に向けた情報発信・相談活動とその促進事業
28	ワールドキッズコミュニティ	多文化な背景を持つ青少年への母語教育マニュアルの普及活動
29	ベトナム夢KOBE	子どものためのベトナム文化理解講座 ～Xin Chao cac ban～（こんにちは みなさん）！～

文化的な都市環境づくり事業

私有地（個人・法人所有を問わない）でありながら、公共の利用に提供しているスペース等の環境整備・充実のための事業（ベンチ、街灯、花壇の設置、植樹等）。

	受給者氏名	助成対象
2017年度は該当なし		

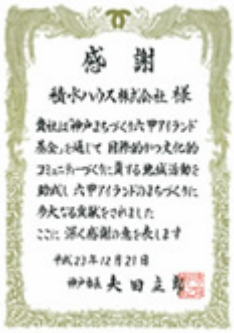
広報・調査・研究活動

国際的な新しいコミュニティづくりや文化的な都市環境づくりに関する広報、講演、シンポジウム開催及び調査、研究活動等。

	受給者氏名	助成対象
30	六甲アイランド地域振興会 RICブランディングプロジェクト	「六甲アイランド地域情報サイトリニューアル事業」

社外からの評価

2011年12月、基金設立以来の15年間にわたり、地域団体、NPO、ボランティア団体が実施する413件の活動に助成を実施し、国際的・文化的なコミュニティづくりを支援してきた実績が評価され、当社、P&G社がそれぞれ神戸市より感謝状を授与されました。


感謝

様

これまでの取り組み

2014年度助成団体
2015年度助成団体
2016年度助成団体

社会貢献 | 地域社会への貢献

チャリティーフリーマーケットの実施

積水ハウスグループでは、関西の事業所合同でチャリティーフリーマーケットに参加。社会課題の解決を担う団体の活動を24年にわたり応援しています。2017年度は、売上金と社員からの寄付金を合わせた総額17万2551円を寄付しました。

積水ハウスグループでは、各地でチャリティーフリーマーケットやチャリティーバザーなどを実施。売上金は、自然災害の被災地で復興支援活動を行う団体、各地域において社会課題を解決するための活動を担う団体などに寄付しています。

2017年11月、JR新大阪駅前で実施された、ノーマライゼーションクラブ※主催のチャリティーフリーマーケットに参加しました。1994年から毎年継続している恒例行事で、関西エリアの全事業所（本社・グループ会社を含む）の社員が、未使用の贈答品など各家庭で活用していない品物を持ち寄り、値付け作業から運搬、当日の販売まで協力して行っています。今回はフリーマーケットの売上金と社員からの寄付金を合わせた総額17万2551円を社会福祉法人ノーマライゼーション協会※に寄付しました。同協会を通じて高齢者福祉や障がい者の自立支援などに役立てられています。

※ 社会福祉法人ノーマライゼーション協会では、障がい者や高齢者などの社会的弱者と「共に生きる」社会の実現を目指し、仕事や生活などの面で、さまざまな支援を行っています。積水ハウスは1991年から会員になっています。ノーマライゼーションクラブは、同協会の後援組織です。

2017年11月4日、集まった品々を社員有志で販売しました。良い品が安価で手に入ると、地域の方々にも喜ばれています

社会貢献 | 地域社会への貢献

「こどもの日チャリティイベント」への参画

2017年5月3～5日、新梅田シティ（大阪市北区）で「こどもの日チャリティイベント」が開催されました。積水ハウス株式会社およびグループ会社の積水ハウス梅田オペレーション株式会社は、この行事を主催する「世界のこどもを救おう実行委員会※」に参加しています。同イベントを通じて、積水ハウスグループとして105万4139円を寄付しました。

2004年から「世界のこどもを救おう実行委員会」主催により「こどもの日チャリティイベント」を開催しています。人類共通の宝であるこどもを、自分（自国）の子、他人（他国）の子の区別なく等しく大切に思い、自ら行動することで、世界のこどもたちを救おうという趣旨で実施しており、2017年度で14回目となりました。自然災害・干ばつ・感染症・武力紛争などによって、世界の各地で多くのこどもたちが困難に見舞われている実情を知り、その状況を改善するための第一歩として、会場での募金とともに未使用切手・未使用はがき・書き損じはがき・海外旅行等で余った外国の紙幣やコインを持ち寄って換金し、こどもたちを救う一助としています。

会場では、多彩なステージアトラクションをはじめ、遊んで学べるワークショップ、ワンコインバザー、世界のこどもの現状を伝える写真展、こども支援団体の活動紹介などが行われ、3日間で計1万1000人が来場しました。

イベント開催に先立ち、積水ハウスグループ社員に協力を呼び掛けたところ、全国から多くの寄付金および切手・はがき・外国通貨などが集まりました。イベント全体の寄付総額は151万9125円（うち積水ハウスグループ105万4139円）に上りました。寄付金は大阪ユニセフ協会を通じて、保健や衛生、教育支援など、世界のこどもたちの生命と健やかな成長を守るための資金として役立てられています。

※ 大阪ユニセフ協会、認定特定非営利活動法人トゥギャザー、梅田スカイビル商店会、大阪新梅田シティライオンズクラブ、積水ハウス株式会社、積水ハウス梅田オペレーション株式会社で構成。

集まった切手・はがき・外国通貨などは換金され、困難に直面している世界のこどもたちの生命と健やかな成長を守るための資金として役立てられています

社会貢献 | 地域社会への貢献

社会貢献活動社長表彰

積水ハウスグループでは、2005年度から社員の社会貢献活動を社長表彰として顕彰しています。2017年度は「官民連携による地域防災力向上とキッズ防災リーダー育成プログラム」「地域ボランティア活動と環境美化活動の推進～地域と信頼で結ばれる工場を目指して～」「納得工房　すまい塾　公開講座『地域に根ざした研究所の取り組み』」の3件を「社会貢献活動社長特別賞」として表彰しました。

社会貢献活動社長表彰の目的は、社員の社会貢献活動を奨励し、社会貢献意識の高い企業文化の醸成に寄与しようとするものです。社会への貢献性、地域との密着または社外との協働、活動の継続性、社内外に及ぼす影響（波及性）、社会からの評価などの観点から、その取り組みが特に顕著であるものを「社会貢献活動社長特別賞」として表彰します。また、表彰外であっても、社長名の「感謝状」を授与する場合があります。受賞した取り組みは、社内誌や社内ホームページなどで広く周知し、社会貢献活動に対する社員の意識向上につなげています。

2017年度「社会貢献活動社長特別賞」

官民連携による地域防災力向上とキッズ防災リーダー育成プログラム

東日本大震災をきっかけに、当社は、東北工場のある色麻町と2013年に「防災協定」を結び、国連防災世界会議でのスタディーツアーをはじめ、総合防災訓練などに取り組み、官民連携による災害に強いまちづくりを実践しています。その一環として、2015年から小中学生を対象に高い防災意識を根付かせ、「防災力」を習得するための「キッズ防災リーダー育成プログラム」を展開。年代ごとに求められる防災力は異なるため、年代に応じた「防災リーダー像」を想定、その実現を目指したプログラムを作成し、適切なタイミングで学べるよう、色麻町と連携して推進しています。防災への理解や興味を深めることはもちろん、授業で習うことと実際に社会で行われていることとの結び付きを子どもたちが体感できる、貴重な学びの機会となっています。

（防災ワーキンググループ）

地域ボランティア活動と環境美化活動の推進～地域と信頼で結ばれる工場を目指して～

関東工場では、長年にわたり工業団地内周辺清掃を実施してきました。1999年「環境未来計画」策定後から、参加人数のトレースを開始。工場内で共に働く構内協力企業にも「地域への恩返し活動」に賛同いただき、広く参加を呼び掛け、2017年に実績は延べ4万人を超えました。また、2001年の「茨城県地球にやさしい企業表彰」の受賞を機に、地域のボランティア活動にも積極的に参加。地元自治体が主催する河川敷清掃参加人数も、2016年に延べ4000人を超えています。

（関東工場）

納得工房　すまい塾　公開講座「地域に根ざした研究所の取り組み」

総合住宅研究所において、1992年から「開かれた研究所」として住文化向上を目指して運営してきた「すまい塾　公開講座」。2014年からは、さらに一歩進め「地域に根ざした研究所」を目指した社会貢献活動の強化に取リ組んできました。活動を通じて、外部企業や各種団体とのネットワーク構築・連携強化を図ってきました。2017年度に開催した「すまい塾　公開講座（みどりのカーテン体験セミナー）」は、その集大成として地域のつながりの場となりました。特別版「みどりのカーテン体験セミナー」では、近隣の子どもたち・学校関係者・保護者と一緒に苗植え体験を行い、収穫の喜びやエコ環境（省エネ効果）について学び、エコライフを楽しむ知恵を、体験を通して身につける機会を子どもたちに提供しました。

（納得工房　すまい塾事務局）

2017年度「感謝状」

夏休み特別企画　積水ハウス　家を作ろう！　KIDSアーキテクト

夏休み中の小学生を対象としたプランニング・プレゼンテーション教室を開催。本物に触れるチャンスを子どもに提供してほしいという学校からの要望を反映させ、具体的な家づくりの計画の仕方を説明し、建築士からゾーニング・素材選択・プレゼンテーション作成について紹介しました。参加した子どもたちは予想以上に熱心に説明を聞き、集中して作業に取り組んでくれました。実物のサンプル（床材、タイル、カーテン）にも非常に興味を持って触れていました。プログラムを通じて、子どもたちの発想力と、新しいことに取り組む力を引き出すことができたと手応えを感じています。

（未来に花を咲かせよう！！〈横浜シャーメゾン支店〉）

「ここにこスマイルタウン」イベント「積水ハウスのおうち研究員」

2015年に「豊橋市子育て応援企業」に認定されたことがきっかけとなり、2017年、豊橋市主催のイベントに出展。「積水ハウスのおうち研究員」と題し、さまざまな材料の断熱実験を行いながら「地球にやさしいエコな家」について考えてもらうプログラムを実施しました。当社ブースは、定員10人×6回×2日間、すべて満席となり、延べ120人の小中学生に体験していただきました。子どもたちやその家族に、地球環境や住宅について知ってもらい、当社の取り組みをわかりやすく伝える場として、今後も活動を継続していきます。

（豊橋支店ママの会）

社会貢献

障がい者の自立と社会参加を応援

積水ハウスグループでは、住宅メーカーという、あらゆる人々の生活に携わる企業として、また、企業理念の根本哲学である「人間愛」に立脚した企業活動の一環として、社外と協働・共創しながら障がい者の自立と社会参加を応援しています。

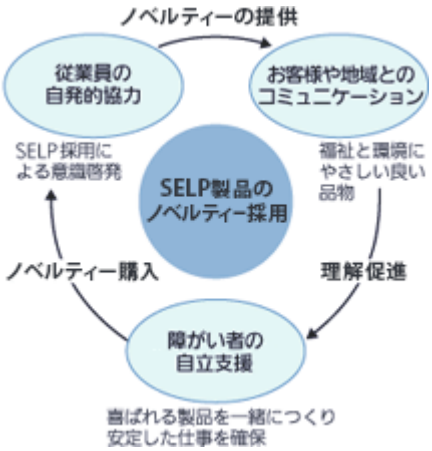
SELP（セルプ）製品※の積極活用

積水ハウスグループは、SELP製品をノベルティーグッズとして継続的に活用することで、障がい者の自立と社会参加を支援しています。

2000年から、認定特定非営利活動法人トゥギャザーと協働。全国各地の障がい者福祉事業所でつくられた製品を購入し、ノベルティーグッズとして日本全国積水ハウスデー「住まいの参観日」などの各種イベントや展示場の来場者にお渡ししています。お客様や地域の方々とのコミュニケーションの機会に活用することで、社員の意識啓発にもつながっています。

2017年度は、SELP製品をノベルティーグッズとして全国で計2万8991個採用しました。これまでの採用実績は累計33万個を超えています。

※ 障がい者が福祉事業所において、リハビリテーションや職業訓練、社会参加の実現を目的に働き、つくる製品のことです。
「SELP」は英語のSelf-Help（自助自立）からの造語です。
また、Support（支援）、Employment（就労）、Living（生活）、Participation（社会参加）の頭文字から成る語ともされています。



過去5年間のSELP製品の採用実績

2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
30,394個	24,869個	29,595個	24,166個	28,991個

定番のエコバッグ

吸水性に優れ、使いやすい蚊帳ふきん

家の形のカードホルダー。木製と陶製があります

東日本大震災被災地で生産されているキャンドル

「障害者週間協賛行事」への参画

2017年12月1日から12月10日まで、梅田スカイビル（大阪市北区）で「障害者週間協賛行事」が開催されました。2005年から毎年開催されており、今回で13回目となりました。大阪における障害者週間の恒例行事として定着しています。積水ハウス株式会社およびグループ会社の積水ハウス梅田オペレーション株式会社は、この行事を主催する「障害者週間協賛行事大阪実行委員会※」の事務局を務め、企画・運営に参画しています。

12月7日には、障害者の就労と自立、社会参加を目指すことを軸に、行政・企業・NPO・市民が互いに理念を尊重しながら協働関係について考える場として「障害者と社会をつなぐシンポジウム」が開催されました。今回のテーマは「障害者の就労と自立を支援する社会づくりのために ～精神障害者の雇用支援をめぐって～」。障害者雇用促進法（障害者の雇用の促進等に関する法律）改正により、2018年4月から雇用義務の対象に精神障害者が追加されるのを前に、「精神障害者の雇用をめぐる課題や、企業等が具体的に検討・実施すべき方策」を焦点に議論しました。第1部では、各パネリストがそれぞれの立場から現在の活動状況と課題などを具体的事例を交えて紹介。第2部「パネルディスカッションと質疑応答」では、参加者からの質問票も参考にしつつ、相互に意見交換しながら、会場全体で検討を深めました。行政・企業・経済団体・福祉団体・NPO・障害者当事者や親の会の方々など総勢115人が参加し、「実践的な発題」「参加する啓発事業」として有意義なものとなりました。

このほか関連行事として「みんなでつくる共生社会パネル展」（大阪府下の小中学生による「障害者週間のポスター」「心の輪を広げる体験作文」の優秀作品を展示）、「障害者の社会参加を支援する企業展示会」（雇用・製品・サービスなどを通じて障害者の自立と社会参加を支援する企業・NPOなどの取り組みを紹介）、「『コラボ・アート21』公開展示会」（障害者による芸術作品展。応募総数391点の中から選ばれた優秀作品18点を展示）、「とっておきのさをり展」（国内外の障害者施設で織られた「さをり織り」の作品を展示・販売）、「ふれあいトゥギャザー ～障害者による手づくり作品展示・販売会～」（全国の障害者福祉事業所でつくられた雑貨・おもちゃ・食品などを展示・販売）を実施。期間中の総来場者は4万人を超えました。

※ 公益社団法人関西経済連合会、大阪商工会議所、一般社団法人関西経済同友会、社会福祉法人大阪ボランティア協会、社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会、認定特定非営利活動法人トゥギャザーで構成。

「障害者と社会をつなぐシンポジウム」
障害者の就労と自立を支援する社会づくりのために
～精神障害者の雇用支援をめぐって～

●基調講演「支援があれば働ける ～精神障害者の就労支援～」

【講師】
田川　精二氏（特定非営利活動法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク　理事長／くすの木クリニック　院長）

●パネルディスカッション「精神障害者雇用における企業・支援機関・地域の役割と連携のあり方」

【パネリスト】
天井　規雄氏（株式会社あしすと阪急阪神　代表取締役社長）
乾　伊津子氏（特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク　理事）
鈴木　章子氏（大阪府　商工労働部　雇用推進室就業促進課　障がい者雇用促進グループ　総括主査）
田川　精二氏（特定非営利活動法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク　理事長／くすの木クリニック　院長）
【コーディネーター】
早瀬　昇氏（実行委員長、社会福祉法人大阪ボランティア協会　常務理事）

シンポジウムの会場には手話通訳が入り、点訳の資料も用意

「障害者の社会参加を支援する企業展示会」の積水ハウスブースでは「障がいに配慮した住まいづくりと、社外との共創による障がい者支援の取り組み」をテーマに紹介

社会貢献

芸術文化発信の拠点となる「絹谷幸二 天空美術館」

積水ハウスは、芸術文化振興による社会創造を目指し、アフレスコ画（壁画の古典技法）の日本の第一人者であり、世界を舞台に活躍する画家、絹谷 幸二氏の「絹谷幸二 天空美術館」を本社のある梅田スカイビルに2016年12月に開設、年間を通じてさまざまなイベント、ワークショップを開催しています。

当社は、芸術文化振興による社会創造を目指し、アフレスコ画（壁画の古典技法）の日本の第一人者であり、世界を舞台に活躍する画家、絹谷 幸二氏の「絹谷幸二 天空美術館」を本社のある梅田スカイビル（タワーウエスト27階）に2016年12月に開設しました。

絹谷氏は、絵画創作活動にとどまらず、外務省主催の「日本ブランド発信事業」に参加、教育活動として若手画家対象の「絹谷幸二賞」の創設にかかわり、また文化庁の「子供 夢・アート・アカデミー」にも参加されています。当社はこれらの絹谷氏の幅広い活動・思想に共感し、当美術館で芸術文化支援を行っています。

「絹谷幸二 天空美術館」は、世界初の絵の中に飛び込む体験ができる3D映像や、人々を元気にするという思いで描いた色彩豊かな絵画や彫刻の数々を展示し、世界中の人々を魅了する絹谷ワールドを存分に体感できる施設となっています。

また小学校や幼稚園の社会見学の場としても活用いただき、ワークショップでは親子で描く肖像画や「新・里山」でのいきものとのふれあいをスケッチしたり、壁に絵を描くアフレスコ体験など天空美術館ならではのイベントも実施しています。

世界的観光スポットとして注目を浴びている梅田スカイビル内にある美術館として、国内だけでなくインバウンドに対しても強力なコンテンツとして、独創性にあふれた唯一無二の美術館を目指し、梅田スカイビル自体の価値向上を図るとともに関西を代表する観光資源として地域にも貢献していきます。

シンボルゾーン

迫力ある3D映像

壁に絵を描くアフレスコ体験

絹谷 幸二氏　プロフィール

1943年生まれ。奈良県出身。

東京藝術大学卒業。日本藝術院会員、独立美術協会会員、東京藝術大学名誉教授。

1974年 「アンセルモ氏の肖像」（東京国立近代美術館蔵）で安井賞受賞
1976年 「アンジェラと蒼い空Ⅱ」（東京国立近代美術館蔵）
1986年 「チェスキーニ氏の肖像」（奈良県立美術館蔵）
1987年 日本芸術大賞受賞
1997年 「銀嶺の女神」長野冬季五輪公式ポスター原画制作
2001年 「蒼穹夢譚」で日本芸術院賞受賞
2013年 「祝・飛龍不二法門」
2014年 文化功労者
2015年 「黄金背景富嶽旭日　雷神・風神」

【関連項目】

- 「絹谷幸二 天空美術館」ホームページ
- 絹谷 幸二 氏のホームページ

社会貢献

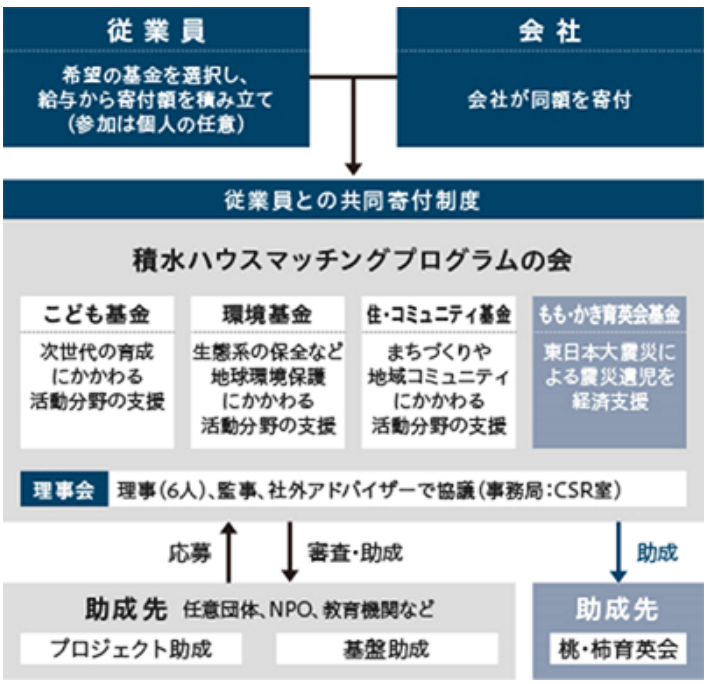
従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

従業員と積水ハウスとの共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を2006年度より開始し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPOなどの団体を支援しています。2017年度は、合計31団体2755万6000円の助成を実施しました。

当社は、従業員と当社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」（会員数約3600人）を2006年度から開始し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPOなどの団体を支援しています。この制度は、従業員が給与から、希望する金額（1口100円）を積み立て、それに会社が同額の助成金を加えて寄付する仕組みです。「こども基金」と「環境基金」の二つの基金をはじめ、2011年には東日本大震災による震災遺児を経済支援する「もも・かき育英会基金」を設置。そして2015年には制度創設10年を節目に、「住・コミュニティ基金」を設置しました。「こども基金」「環境基金」「住・コミュニティ基金」については、会員代表で構成する理事会で支援先を決定しています。

2017年度は、「こども基金」16団体（プロジェクト助成14団体・基盤助成2団体）に1505万円、「環境基金」13団体（プロジェクト助成13団体）に1149万6000円、「住・コミュニティ基金」2団体（プロジェクト助成1団体・基盤助成1団体）」に101万円の合計31団体2755万6000円の助成を実施。また、「もも・かき育英会基金」では、2017年度に1350万円（累計：8250万円）を寄付。これまで延べ257団体に2億円を超える助成を実施しています。

「積水ハウスマッチングプログラム」の仕組み



団体に対する基礎的支援「基盤助成」も実施

申請があった個々のプロジェクトに対して助成する「プロジェクト助成」と、団体のインフラ整備、活動の質の向上、会員拡大などの取り組みに助成する「基盤助成」の2種類を実施しています。「基盤助成」は、資金使途に制約が少なく、団体の基盤強化に幅広く活用できることから、これまでに基盤助成を実施した団体からも好評です。

また、基盤助成団体に対しては、協働事務局の社会福祉法人 大阪ボランティア協会による「基盤的支援」にかかわるヒアリング、コンサルティングを行っています。

制度創設10年記念冊子を発行

2015年度で、「積水ハウスマッチングプログラム」が制度創設10年目を迎えたことを節目に、記念冊子を発行しました。「こども基金」「環境基金」から助成した各4団体を紹介し、助成金を受けての活動内容、会員に向けたメッセージを掲載しています。他にも、理事会の様子や理事メンバーの顔写真、コメントを紹介するとともに、過去10年間の助成団体、助成実績を一覧やグラフで表現し、10年間の実績を掲載しています。

全ページ閲覧　→　click

2017年度 助成団体　※助成時の内容

■ プロジェクト助成（こども基金）・・・団体からの申請プロジェクトに助成

団体名・プロジェクト名	助成金額
認定NPO法人アイキャン プロジェクト名：フィリピンミンダナオ島先住民の子どもたちの教育環境向上事業	170万円
認定NPO法人アジアチャイルドサポート プロジェクト名：水と電気で守る子どもたちの命と支える未来	100万円
NPO法人石巻復興支援ネットワーク プロジェクト名：石巻での親子の孤立防止のための子育て相談会と子育て応援イベントの開催	50万円
認定NPO法人SOS子どもの村 JAPAN プロジェクト名：トラウマを抱えた子どものレジリエンスを高める「遊びプログラム」開発	80万円
認定NPO法人幼い難民を考える会 プロジェクト名：カンボジア「村の幼稚園」プロジェクト～農村の子どもたちに幼児教育を～	150万円
NPO法人関西NGO協議会 プロジェクト名：～持続可能な社会の実現に向けて～高校生による国際協力エキスポを通じた人材育成事業	140万円
NPO法人子育て家庭支援センターあいくる プロジェクト名：おやこde先生の未来教室	60万円
認定NPO法人国境なき子どもたち プロジェクト名：ストリートチルドレンを対象としたドロップインセンター事業	100万円
認定NPO法人3keys プロジェクト名：地域と子どもたちをつなぐ支援情報ポータルサイト「Mex（ミークス）」の全国版化	100万円
認定NPO法人チャイルドファーストジャパン プロジェクト名：「子どもの権利擁護センター」事業	100万円
NPO法人にじいろクレヨン プロジェクト名：復興公営住宅で暮らす子どものためののびのびアートプロジェクト	95万円
NPO法人ハニー・ビー プロジェクト名：支援が必要な子どもたちが働く喜びを感じられる応援プログラム	150万円
NPO法人：フーズマイルぐりぐら プロジェクト名：食物アレルギー対応非常食の配布による啓蒙プロジェクト	70万円
認定NPO法人フードバンク山梨 プロジェクト名：「フードバンクこども支援プロジェクト　困窮世帯の子どもたちへの学習支援と食育」事業	100万円

プロジェクト助成（環境基金）・・・団体からの申請プロジェクトに助成

団体名・プロジェクト名	助成金額
公益財団法人オイスカ プロジェクト名：タイ農村部における子どもたちの植林活動支援を通じたふるさと再生プロジェクト	100万円
認定NPO法人共存の森ネットワーク プロジェクト名：平成29年度 学校の森・子どもサミット夏大会 in 愛知・三重	80万円
NPO法人吉里吉里国 プロジェクト名：集落営林事業による美しい森・街・コミュニティづくり	100万円
NPO法人こが里山を守る会 プロジェクト名：稲宮の森の再生活動	29万6,000円
NPO法人山村塾 プロジェクト名：豪雨災害からの復興を目指し、里山や棚田の保全に取り組む国際ボランティア合宿	100万円
NPO法人自然環境アカデミー プロジェクト名：八王子滝山里山保全地域でのホタルの里復元活動	90万円
NPO法人すいた環境学習協会 プロジェクト名：体験型の環境学習支援を通して、「小・中・高等学校の子ども達に環境学習指導」を展開し、「自身も環境保全活動」を行い、「地域社会も対象として普及啓発活動を展開」する。	40万円
NPO法人棚田LOVER's プロジェクト名：棚田・生態系保全、エコミュニティ、生物多様性棚田活動戦略普及啓発プロジェクト ～棚田、古民家での体験・積水ハウスさまの展示会の餅つきで、他地域への活動の広がりを目指す～	100万円
認定NPO法人トゥギャザー プロジェクト名：障害者のグループホームから発信する花と緑のコミュニティづくり	160万円
NPO法人フェア・プラス プロジェクト名：アバカ・フェアトレード商品開発を通じた、フィリピン農村の自然環境と伝統技法の持続的保護、および健康に優しい生産環境の整備	100万円
NPO法人緑のダム北相模 プロジェクト名：相模湖・若者の森づくり	50万円
NPO法人森のライフスタイル研究所 プロジェクト名：千葉県山武市蓮沼殿下海岸林の再生 ～海岸林の機能拡大をめざした林帯幅拡張活動 パート3～	130万円
NPO法人夢ネット大船渡 プロジェクト名：被災地再生支援事業	80万円

プロジェクト助成（住・コミュニティ基金）・・・団体からの申請プロジェクトに助成

団体名・プロジェクト名	助成金額
NPO法人まめってぇ鬼無里 プロジェクト名：みんなでつかう「鬼無里のふるさとの家」活用プロジェクト ～古民家の直し方・暮らし方ワークショップ～	81万円

基盤助成・・・団体のインフラ整備、活動の質の向上、会員の拡大など今後の発展に期待して助成（上限20万円）

こども基金	住・コミュニティ基金
NPO法人かほくスポーツクラブ	えんがわの家　よってこしもだ
NPO法人ハッピーライド	

これまでの助成実績（プロジェクト助成・基盤助成）の合計金額

	こども基金		環境基金		住・コミュニティ基金		合計	
	金額	団体数	金額	団体数	金額	団体数	金額	団体数
2013年度	1,070万円	10	970万円	12	-		2,040万円	22
2014年度	1,241万円	15	889万円	12			2,130万円	27
2015年度	1,218万円	12	1,060万円	13			2,278万円	25
2016年度	1,350万円	13	864万円	11	170万円	2	2,384万円	26
2017年度	1,505万円	16	1,149万6,000円	13	101万円	2	2,755万6,000円	31

社外からの評価

2010年

第4回キッズデザイン賞（ソーシャルキッズサポート部門）受賞

（主催：NPO法人キッズデザイン協議会）

KIDS DESIGN AWARD 2010

社会貢献

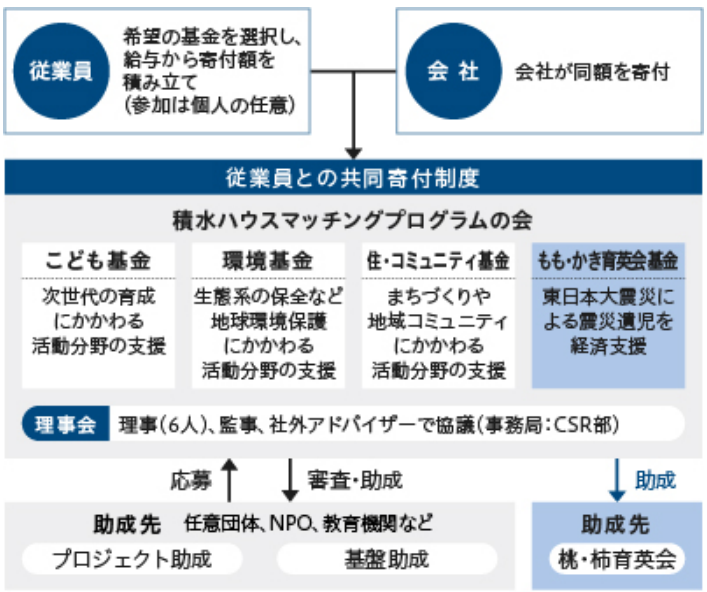
従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

従業員と積水ハウスとの共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を2006年度より開始し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPOなどの団体を支援しています。2018年度は、合計29団体2634万1100円の助成を実施しました。

当社は、従業員と当社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」（会員数約4400人）を2006年度から開始し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPOなどの団体を支援しています。この制度は、従業員が給与から、希望する金額（1口100円）を積み立て、それに会社が同額の助成金を加えて寄付する仕組みです。「こども基金」と「環境基金」の二つの基金をはじめ、2011年には東日本大震災による震災遺児を経済支援する「もも・かき育英会基金」を設置。そして2015年には制度創設10年を節目に、「住・コミュニティ基金」を設置しました。「こども基金」「環境基金」「住・コミュニティ基金」については、会員代表で構成する理事会で支援先を決定しています。

2018年度は、「こども基金」15団体（プロジェクト助成15団体）に1450万円、「環境基金」12団体（プロジェクト助成11団体・基盤助成1団体）に1034万1100円、「住・コミュニティ基金」2団体（プロジェクト助成2団体）に150万円の合計29団体2634万1100円の助成を実施。また、「もも・かき育英会基金」では、2017年度に1350万円（累計：8250万円）を寄付。これまで延べ286団体に3億円を超える助成を実施しています。

「積水ハウスマッチングプログラム」の仕組み



従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」（2018年度）

団体に対する基礎的支援「基盤助成」も実施

申請があった個々のプロジェクトに対して助成する「プロジェクト助成」と、団体のインフラ整備、活動の質の向上、会員拡大などの取り組みに助成する「基盤助成」の2種類を実施しています。「基盤助成」は、資金使途に制約が少なく、団体の基盤強化に幅広く活用できることから、これまでに基盤助成を実施した団体からも好評です。

また、基盤助成団体に対しては、協働事務局の社会福祉法人 大阪ボランティア協会による「基盤的支援」にかかわるヒアリング、コンサルティングを行っています。

制度創設10年記念冊子を発行

2015年度で、「積水ハウスマッチングプログラム」が制度創設10年目を迎えたことを節目に、記念冊子を発行しました。「こども基金」「環境基金」から助成した各4団体を紹介し、助成金を受けての活動内容、会員に向けたメッセージを掲載しています。他にも、理事会の様子や理事メンバーの顔写真、コメントを紹介するとともに、過去10年間の助成団体、助成実績を一覧やグラフで表現し、10年間の実績を掲載しています。

全ページ閲覧　→　click

2018年度 助成団体　※助成時の内容

■ プロジェクト助成（こども基金）・・・団体からの申請プロジェクトに助成

団体名・プロジェクト名	助成金額
NPO法人 アスペ・エルデの会 プロジェクト名：子育てに難しさを感じる子どもの保護者支援のための支援者養成	100万円
認定NPO法人 ESAアジア教育支援の会 プロジェクト名：ESA「ゾウさん文庫」プロジェクト	100万円
認定NPO法人 エファジャパン プロジェクト名：プノンペン郊外（カンダール州）での「学童保育所」設立による子ども支援	60万円
認定NPO法人 幼い難民を考える会 プロジェクト名：カンボジア「村の幼稚園」プロジェクト～地域での継続運営を目指して～	150万円
NPO法人 関西NGO協議会 プロジェクト名：～持続可能な社会の実現に向けて～高校生による国際協力エキスポを通じた人材育成事業	120万円
NPO法人 子育て家庭支援センターあいくる プロジェクト名：「おやこde先生」の未来教室	60万円
認定NPO法人 国境なき子どもたち プロジェクト名：フィリピン共和国における貧困地域の子ども、および法に抵触した青少年の生活・教育支援事業	100万円
NPO法人 コドモ・ワカモノまちing プロジェクト名：移動式「防災がっこう」　～防災ツールづくり＆行事防災～	100万円
NPO法人 Japan Hair Donation & Charity プロジェクト名：髪を失った子ども達に『世界にひとつだけのウィッグ（Onewig）』を届ける無償提供プロジェクト	150万円
社会福祉法人 ストローム福祉会 山王こどもセンター プロジェクト名：西成区山王のみんなの食堂「永信こども食堂」	80万円
認定NPO法人 3keys プロジェクト名：子どもたち向け支援情報ポータルサイト「Mex（ミークス）」のサービス拡充・利用促進	100万円
NPO法人 にじいろクレヨン プロジェクト名：復興公営住宅で暮らす子どものためののびのびアートプロジェクト	95万円
認定NPO法人 日本レスキュー協会 プロジェクト名：病気と必死に闘う未来を担う子供たちの側にいつも「セラピードッグが寄り添う病院」を目指して	113万円
認定NPO法人 フードバンク山梨 プロジェクト名：「フードバンクこども支援プロジェクト　困窮世帯の子どもたちへの学習支援と食育」事業	80万円
NPO法人 福島就労支援センター プロジェクト名：原発避難・貧困家庭の子どもを対象とした無料学習教室「スタディ☆センター」	42万円

プロジェクト助成（環境基金）・・・団体からの申請プロジェクトに助成

団体名・プロジェクト名	助成金額
一般社団法人 あきた地球環境会議 プロジェクト名：地球へ広がれECOの環いっぱい！「ちきゅう博士」誕生プロジェクト	100万円
公益財団法人 オイスカ プロジェクト名：タイ農村部における子どもたちの植林活動支援を通じたふるさと再生プロジェクト	100万円
NPO法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター プロジェクト名：アマモ場再生による「海の魅力の再発見」活動	100万円
認定NPO法人 共存の森ネットワーク プロジェクト名：森と湖をつなぐESDの実践！「平成30年度 学校の森・子どもサミット」	80万円
NPO法人 吉里吉里国 プロジェクト名：集落営林事業による美しい森・街・コミュニティづくり	100万円
NPO法人 グラウンドワーク三島 プロジェクト名：荒廃が進む「ふるさとの森と水辺環境」を守れ！大場里山再生プロジェクト	130万円
認定NPO法人 トゥギャザー プロジェクト名：障害者福祉事業所・グループホームから地域へ発信！暮らしに広がる花と緑のコミュニティづくり	100万円
NPO法人 八東川清流クラブ プロジェクト名：きれいな水の八東川をみんなで守る活動	28万円
NPO法人 フェア・プラス プロジェクト名：アバカフェアトレード商品を通じたフィリピン農村の自然環境保護、伝統技法支援と働く環境の改善	100万円
NPO法人 緑のダム北相模 プロジェクト名：相模湖・若者の森づくり	50万円
NPO法人 森のライフスタイル研究所 プロジェクト名：千葉県山武市蓮沼殿下海岸林の再生～海岸林の機能強化をめざした林帯幅拡張活動　パート4～	130万円

■ プロジェクト助成（住・コミュニティ基金）・・・団体からの申請プロジェクトに助成

団体名・プロジェクト名	助成金額
NPO法人 循環生活研究所 プロジェクト名：おいしい、楽しい、かっこいい循環生活「ローカルフードサイクリング」	100万円
NPO法人 しんしろドリーム荘 プロジェクト名：限界集落を再生する空き家マッチングプロジェクト	50万円

■ 基盤助成・・・団体のインフラ整備、活動の質の向上、会員の拡大など今後の発展に期待して助成（上限20万円）

環境基金
三鉄沿線花プロジェクト

■ これまでの助成実績（プロジェクト助成・基盤助成）の合計金額

	こども基金		環境基金		住・コミュニティ基金		合計	
	金額	団体数	金額	団体数	金額	団体数	金額	団体数
2014年度	1,241万円	15	889万円	12	-		2,130万円	27
2015年度	1,218万円	12	1,060万円	13			2,278万円	25
2016年度	1,350万円	13	864万円	11	170万円	2	2,384万円	26
2017年度	1,505万円	16	1,149万6,000円	13	101万円	2	2,755万6,000円	31
2018年度	1,450万円	15	1,034万1,100円	12	150万円	2	2,634万1,100円	29

社外からの評価

2010年
第4回キッズデザイン賞（ソーシャルキッズサポート部門）受賞
（主催：NPO法人キッズデザイン協議会）

KIDS DESIGN AWARD 2010

社会貢献

災害義援金

2017年度は「平成29年7月九州北部豪雨」の発生を受けて義援金を募集。全国の積水ハウスグループ社員および協力工事店の皆様から総額808万9028円が寄せられました。

積水ハウスグループでは、国内外で大規模な自然災害などが発生した際、コーポレート・コミュニケーション部CSR室が窓口となり、社員に向けて、救援活動や被災地の復旧活動などに役立てていただくための災害義援金への協力を呼び掛けています。

2017年7月5日からの豪雨により、福岡県や大分県などで甚大な被害が出ました。被災地の復旧・復興、被災者の生活再建に役立てていただくための義援金を募ったところ、全国の積水ハウスグループ社員および協力工事店の皆様から総額808万9028円が寄せられました。集まった義援金を分配し、特に被害の大きかった福岡県朝倉市に650万円、福岡県朝倉郡東峰村に80万円、大分県日田市に78万9028円を寄付しました。

過去7年間の義援金の実績

年度	義援金名	金額	総額
2011年度	「オーストラリア洪水」義援金	2,104,297円	90,249,438円
	「ニュージーランド地震」義援金	1,981,666円	
	「東日本大震災」義援金	82,989,208円	
	「台風12号および15号」義援金	3,174,267円	
2012年度	「九州北部豪雨」義援金	3,502,942円	3,502,942円
2013年度	「フィリピン台風」義援金	5,135,608円	5,135,608円
2014年度	「近畿北部および広島豪雨」義援金	7,427,300円	7,427,300円
2015年度	「ネパール地震」義援金	5,548,851円	11,945,778円
	「関東および東北豪雨」義援金	6,396,927円	
2016年度	「熊本地震」義援金	17,294,992円	17,294,992円
2017年度	「九州北部豪雨」義援金	8,089,028円	8,089,028円

社会貢献

自然災害からの復旧・復興に向けた取り組み

自然災害による被害を防ぐこと（防災）、軽減すること（減災）は、住まう人の生命や財産、暮らしを守る事業に特化した戦略を推進する積水ハウスグループにとって重要なテーマの一つです。併せて、自然災害が発生した場合の被災者の安否・被害情報の確認や支援体制の確立などに、迅速に対応することも住宅メーカーとして必要であると考えています。

東日本大震災からの復興に向けて

当社グループは、東日本大震災発生直後から被災地のお客様を速やかにサポートし、その状況に合わせて、復旧・復興工事ならびに、仮設住宅や災害公営住宅などの建設に取り組んできました。2018年3月で東日本大震災より7年が経過し、当初5年間の「集中復興期間」が終了、現在は2021年3月までの「復興・創生期間」に位置付けられています。しかし今もなお多くの被災者が避難生活を余儀なくされています。その被災者のためにも、公的賃貸住宅「災害公営住宅」の早期整備が急務であり、当社はグループの総力を挙げ、迅速かつ確実に進めています。

復興計画の進捗は、エリアや行政により差があり、それぞれの地域の実情に合わせた暮らしや住まいの提案が必要になります。当社グループは、地元の施工力と全国からの施工支援により、3県で464棟1087戸の災害公営住宅を契約工期内で竣工・引き渡ししており、行政からその施工力と品質を高く評価されています。災害公営住宅はこれまで請負による在来木造・鉄筋コンクリート造が主流でしたが、高品質で短工期の当社オリジナル構法を含む軽量鉄骨造が認められるようになり、最近では、自由度・対応力が高く工期の短い当社オリジナル重量鉄骨造「βシステム」による大型案件も増えています。

また7年が経過し、エリアごとの復興状況も変化しています。宮城県・岩手県の地震・津波被災地域では、災害公営住宅の整備もほぼ完了、「総仕上げ」に向けた新たなステージに入っています。原発被災地域の福島県では、避難指示解除等が進み、「本格的な復興」のステージに入りました。被災地の自立につながり、地方創生モデルとなるよう、帰還に向けた復興拠点（コンパクトタウン）づくりが加速化しています。当社もこれまでの復興事業で培ったノウハウを生かし、戸建住宅中心のまちなみづくりやβシステムによる3～4階建ての大規模建築等さまざまな行政のニーズに対応しています。同時に日本初のスマートグリッドを実現した東松島市の実績を生かし、再生可能エネルギーの地産地消やCO_2削減に向けたスマートな復興拠点づくりを、積極的に提案しています。

今後も当社の技術力・提案力・施工力により、安全・安心・快適な、入居者に喜んでいただける災害公営住宅の供給を含めた復興事業の推進に取り組んでいきます。

災害公営住宅の供給状況

	落札実績		竣工実績	
2012年度	4棟	26戸	-	
2013年度	84棟	285戸	4棟	26戸
2014年度	124棟	211戸	16棟	53戸
2015年度	126棟	184戸	116棟	382戸
2016年度	46棟	301戸	55棟	72戸
2017年度	81棟	113戸	273棟	554戸
合計	465棟	1,120戸	464棟	1,087戸

災害公営住宅 実例

① 福島県楢葉町中満地区災害公営住宅（2017年6月竣工）

◇構造　SMJシステム（平屋）
◇棟数　121棟124戸
（戸建・2LDK：56棟、3LDK：63棟
長屋・2LDK：1棟4戸　集会所：1棟）
◇延床面積　8,747.75m²

② 福島県富岡町曲田地区災害公営住宅（2017年7月竣工）

◇構造　重量鉄骨造　βシステム
◇棟数　1棟40戸
（2DK：12戸、2LDK：27戸、車イス住戸1戸）
◇延床面積　2,901.34m²

熊本地震からの復旧・復興

2016年4月の熊本地震では、日本の地震観測史上初めて、一連の地震活動において「震度7」が繰り返し観測された大地震となり、多数の死傷者が出るとともに、家屋の全半壊や一部破損が相当数発生するなど、甚大な被害となりました。

熊本県下の当社住宅1万246棟について、人的被害や家屋の全半壊はありませんでしたが、東日本大震災発災時の初動対応を教訓に、前震直後に、九州営業本部に「連携対策本部」を、続いて熊本に「現地対策本部」を設置。被災地域の社員とその家族の安否や被災状況を確認後、約1万件のお客様の被災状況を6月上旬には確認することができました。被災地エリアの初動対応が適切かつ迅速だったこと、工場や本社の備蓄物資が速やかに届けられたこと、全国からの施工・技術支援体制が速やかに整ったことやiPadを活用したオリジナルアプリによる被災情報の共有が図れたことなどが奏功した結果であると考えています。復興段階を迎えた現在でも、道路の段差や亀裂の補修が進んでいない場所や、補修ができていない住宅もあり、復興へは道半ばの状況です。基礎や構造などの大規模な工事や復興住宅の建築にグループを挙げて継続して取り組んでいます。

総合職入社の全新入社員が被災地復興支援活動に参加

東日本大震災の翌年から、総合職入社の全新入社員が交代で被災地復興支援活動に取り組んでいます。本活動は、被災地のニーズに基づく支援とともに当社の「企業理念」や「行動規範」に基づく相手本位の考え方・行動を身につけ、住宅事業の意義について理解を深めることを目的としています。

現地で活動するNPO法人と連携して、支援ニーズを聞きながら、「現地の方々に喜んでもらうために何ができるか」を考えて行動。東北では雄勝ローズファクトリーガーデンの移設支援と仮設住宅・復興公営住宅での清掃活動や住民の方とのコミュニケーションを図るイベントを行いました。

2017年度には、熊本地震被災地においても活動を開始。仮設住宅に風除用の壁を取り付ける活動を中心に行いました。

	東北	熊本
2012年度	347人	
2013年度	566人	
2014年度	460人	
2015年度	390人	
2016年度	323人	
2017年度	335人	107人
6年間の合計参加人数	2,528人	

2017年度からは新入社員の配属先によって活動エリアを決定

東北での復興支援活動の様子

熊本での復興支援活動の様子

九州北部豪雨災害でも迅速に初動対応

2017年7月5日から6日にかけて、福岡県と大分県を中心とする九州北部で集中豪雨が発生し、甚大な被害をもたらしました。当社住宅に大きな被害はありませんでしたが、6日午前8時に対策本部（九州営業本部内）と現地対策本部（九州西カスタマーズセンター・九州北カスタマーズセンター内）を設置。特に集中的な豪雨に見舞われた福岡県朝倉市・大分県日田市を中心に「安心電話」や「見守り訪問」を実施し、9日にはエリア内全1146件のお客様フォローを完了しました。フォローの結果、浸水被害があった13件のうち、4件のオーナー様宅は至急対応が必要と判断し、九州の三つのカスタマーズセンターが連携し、延べ57人の所員で泥出しなどの対応に当たるなど、一日も早く平穏な暮らしを取り戻していただけるよう復旧活動に取り組みました。また、復旧後も継続してお困りごとに迅速に対応しました。

手作業で泥をかき出し

泥出し後は泥まみれ

VOICE

社員の皆さんの自社に対する誇りに感銘

九州北部豪雨により被災したため、カスタマーズセンターに連絡を入れると、早速所長と担当者が来て、被害状況の確認をしてくれました。また、支店長・技術次長・営業担当がお見舞いに来てくれました。その後も多数の方が駆けつけ、泥まみれになって復旧作業をしてくださった姿には心を打たれました。その後も我が家の状況にお心をかけてくださり、お陰さまで快適に暮らせるようになりました。御礼と感謝を申し上げますとともに社員の皆さんの自社に対する誇りに感心しました。

オーナー様（U様）コメント（社長宛てに頂戴したお手紙より抜粋）

泥出し作業後にオーナー様（U様）ご夫婦（右端）と一緒に

その他の自然災害においても、サポート体制を速やかに編成し、必要に応じたお客様支援を迅速に行っています。

被災地への社内旅行を推奨

東日本大震災や熊本地震の被災地で「住まう人の生命・財産・暮らしを守る」という住宅会社の使命を再認識するとともに、被災地域での消費行動による経済支援を目的に、東北3県（岩手県・宮城県・福島県）や熊本県・大分県への社内旅行を開催する場合、会社が費用の一部を補助する制度を運用しています。2018年1月末までに、延べ162事業所8325人が本制度を利用しました。

熊本城をバックに集合写真（埼玉支店の社内旅行）

	東北3県（岩手県・宮城県・福島県）		熊本県・大分県	
2011年度	12事業所	555人		
2012年度	27事業所	1,497人		
2013年度	24事業所	1,201人		
2014年度	24事業所	1,276人		
2015年度	18事業所	979人		
2016年度	14事業所	887人	14事業所	541人
2017年度	12事業所	644人	17事業所	745人
累計	131事業所	7,039人	31事業所	1,286人

「企業マルシェ」などを開催し、被災地企業の商品を購入して支援

当社グループは、自然災害により大打撃を受けた地域の企業が抱えている課題を解決するために、大手企業等の経営資源を被災地域の企業と効果的につなぐ「地域復興マッチング『結の場』」（主催：復興庁）に積極的に参加しており、その一環で、被災地企業の商品を購入して支援する即売会「企業マルシェ」を開催しています。2017年11月17日（金）には本社のある梅田スカイビル（大阪市）で3回目の「企業マルシェ」を開催しました。

その他にも、当社が主催する販促イベントに被災地域の企業にブース出展いただき、来場者に購入していただく機会なども設けています。

「企業マルシェ」の様子

【関連項目】

- 自然災害発生時の対応
- 災害時の復旧支援体制